

DL-Raw.Net

第一話　首斬り家　三
第二話　情欲の獣　五七
第三話　親孝行　九一
第四話　眩しい月夜　一一三
第五話　この国の支配者　一三五
第六話　五稜家の女　一五五
第七話　片思いの口づけ　一七三


華族(かぞく)
それは高貴なるもの
あ、あっ
明治の時代に産声(うぶごえ)を上げ
ギシッ
ギシッ
国を動かしてきた
特権階級・・・・
や…
見ろ・・・・
見ろ!!



ああ・・・・・
見るんだ幸乃助!!
なんて僕は
パンッ
パンッ
ギシッ


見ろ!!
パアン
不幸なのだ・・・
ギシッ
ギシッ
ギシッ

明治四年

第一話 首斬り家




いつ見ても素敵ねぇ！俳優みたいだわ
しかも開成学校で首席だった天才なんでしょう!!
どなたとご結婚されるのかしら！うらやましいわぁ
へぇ！
※東京大学の前身。
えれぇ人気だな「華族」様は
ゾリ ゾリ
皇室・宮家に次ぐ上流階級ですからな！
「皇室の藩屏」なんて言われてますが・・・どんな暮らししてるんでしょうなぁ
へっ！その日暮らしの牛乳配達には想像もつかんねぇ





あ……
ギシ…
んっ



ギシ
た……達臣さま…私……
あ
お食事の支度が……
あんっ
ギシ



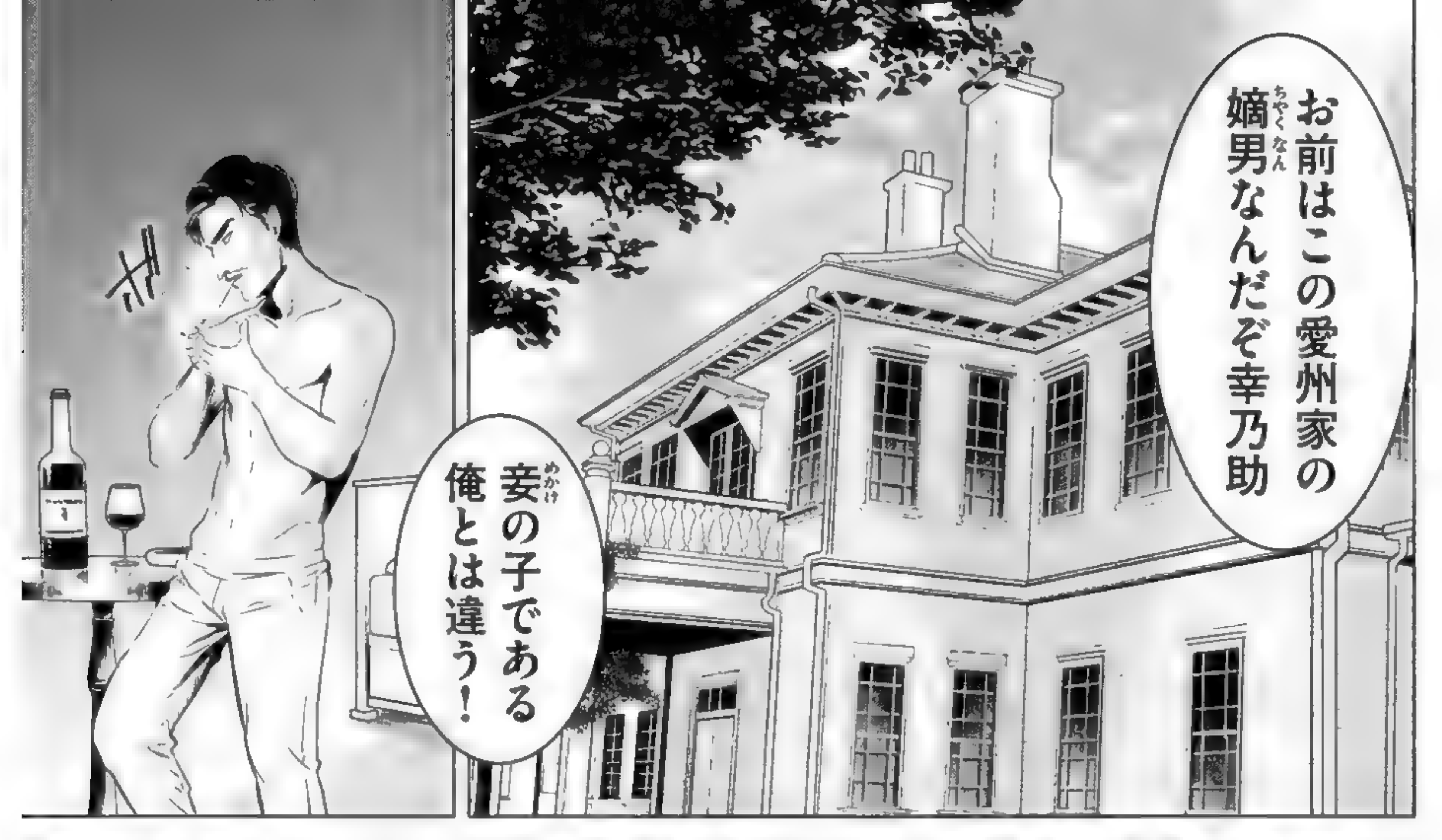
いやあっ
ガバ
パンッ
どうだ幸乃助
このみだらな
雌の顔はっ！
めあっ!?
あ、
パンッ
パンッ
ズチュ
はん、
パンッ
パンッ
欲情にかられ
職務を放棄して
いるのだぞ
パンッ
パンッ
やっ……
だめ……
ズッ
ズッ
は……っ
恥ずかしいっ……
ドン


……


……ダメだ……
兄さん……




とっとと服を着て出ていけ!
もういい! 諦めるよ僕は……
ああっ
ドッ
何言ってる!!



お前はこの愛州家の嫡男なんだぞ幸乃助
妾の子である俺とは違う！



世継ぎを残さんわけにはいかんだろう
……



グ
愛州幸乃助⑱
僕は生まれながらにこの時代の勝者だろう……

「華族」という選ばれし
家柄の嫡男

国内最高峰の
優秀な教育を受け

末は国の中枢を
担うであろう
何不自由ない
高貴なる人生・・・・








やめてくれ！
もう
放っといてよ!!
バッ
僕には
もう無理
なんだ！
ダッ
幸乃助!!
……
真実は
なんと虚しく
情けない事か

僕は生まれてから一度たりとも

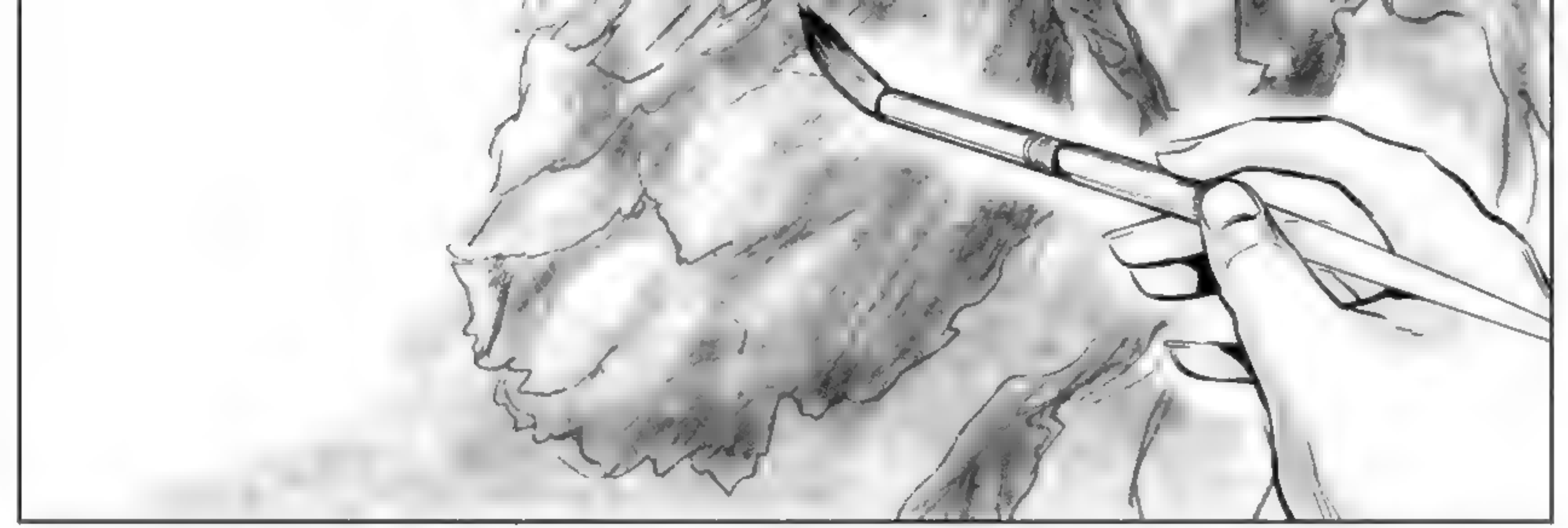


一度たりとも



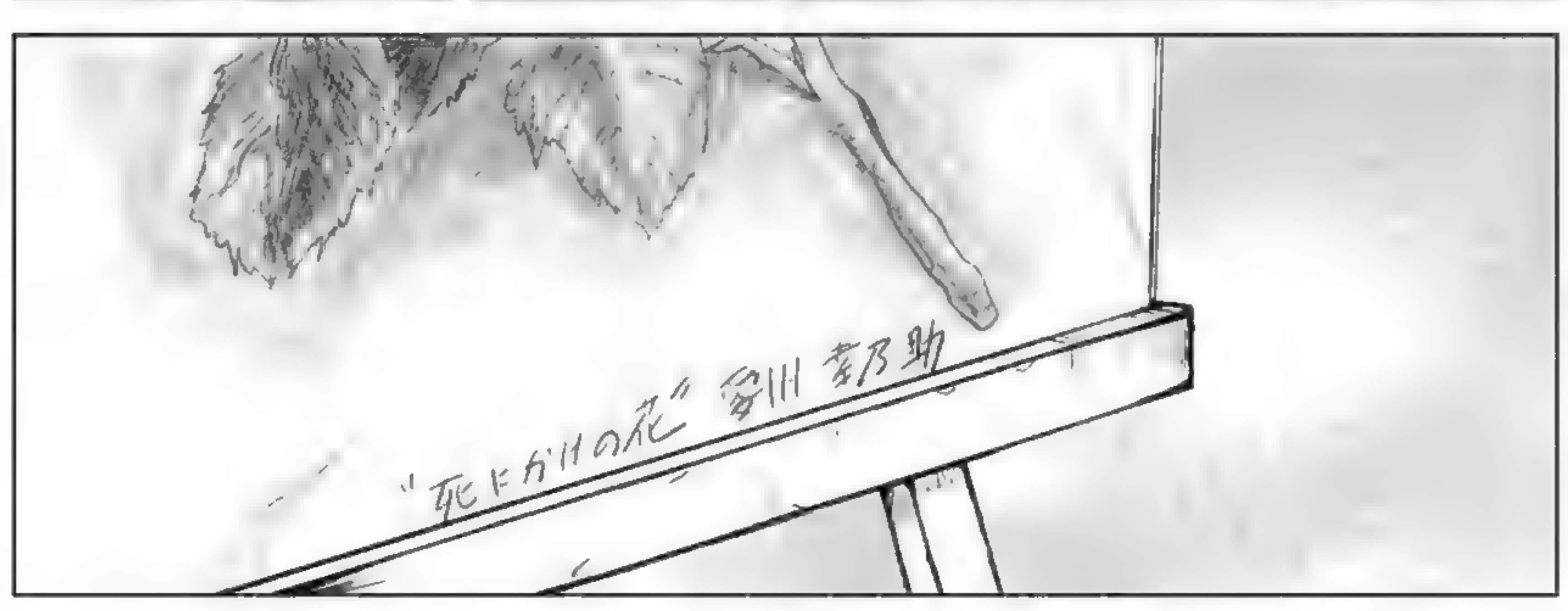
一度たりとも


一度たりとも
勃(た)った事がない




……
幸乃助様
お夕飯です


ああ……
今行くよ

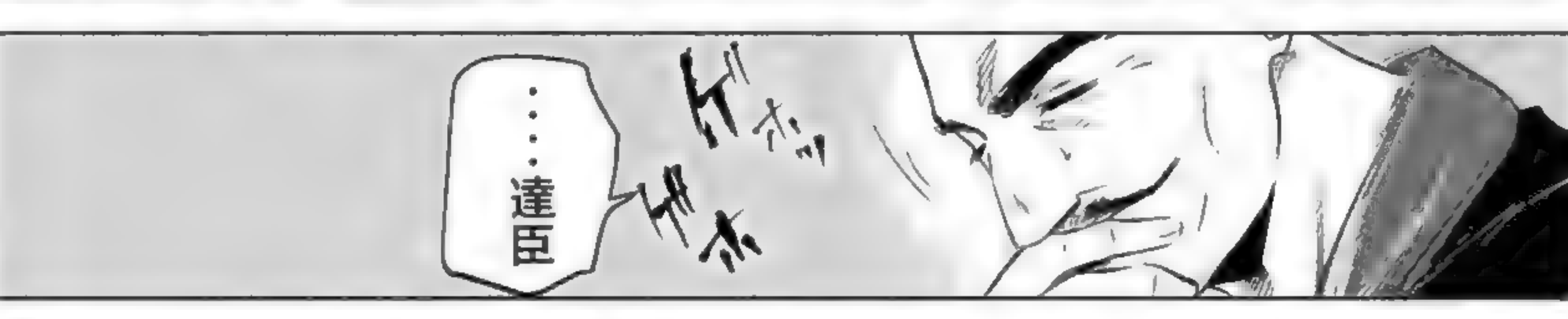

"死にかけの花" 多川 幸乃助


なんだ幸乃助
また絵を描いて
いたのか？
ええ……
幸乃助さんの
油絵は
ドイツ大使も絶賛
されてましたわよ

両親は何も知らない

僕が子孫を残せぬなら
せめて絵を……と
思って描いている事も

カチャ
カチャ
カチャ











ニコ
お前は何も気にしなくていいのだよ幸乃助
ニコ
ニコ
そうそう達臣さんに任せておきなさい
ニコ…







ったく
体力ねぇくせに！

……み…ません……

親父たちにバレたら大目玉だぞ

でも…ぼ……僕は……

外が……見たくて!!

……外ねぇ……



訪ね先は

明治の血を吸い続けてる家だ

洞門家（どうもんけ）





首斬り家

江戸～明治にかけて八代にわたって死刑執行を兼務してきた家は実在し

明治二年
市政裁判所により
正式に
一ヵ月五両の手当金で
「首討役」に任命された

処刑人である

……ここに来るのは初めてじゃない

！



※1 結核の事。



※2 人体を使用した薬の事。

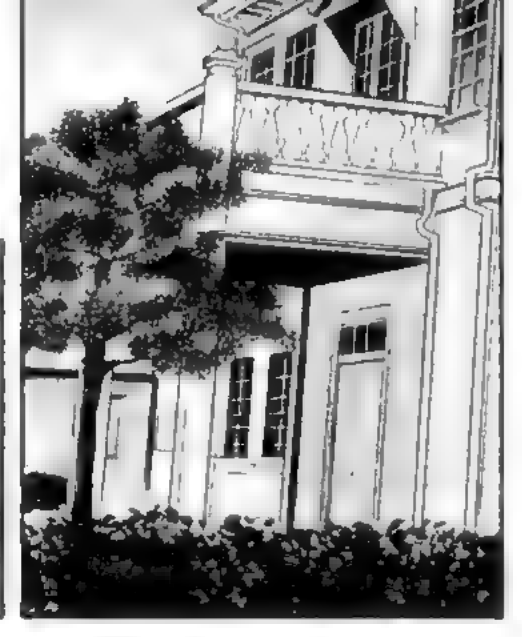


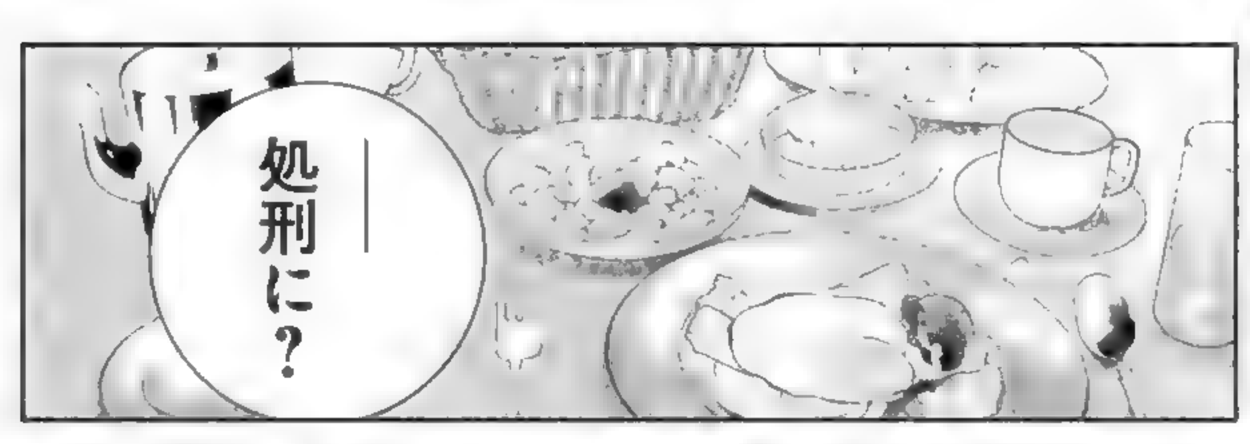



ググ…
ファサ…
行くぞ幸乃助
……
いつ来ても空気が重い所だ
気が滅入るからさっさと帰るぞ
キョロ
キョロ
カナカナカナ
カナカナカナ…


ゾク


なんと冷たい
目をした少年だ……
カァ
カァ
カァ




――処刑に？


どうしてあなたがあんな野蛮なところに行く必要があるのです？
全くだ愛州家の嫡男に首斬り見物などふさわしくない
人に見られたらどうするんだ


ガタッ
達臣お前も幸乃助に余計な事を喋るんじゃない！
はいはい




コトッ
バキッ
うわっ！

……ったく！木登りも苦手だろうが

早く立て行くぞ！






処刑されるのは
…もしかして
あの執事の…？
ガラ
ガラ
ああ 母さんの
宝石をくすねた
ジイさんさ
ガラ

やっぱりか…
あの人は僕を
小さい頃から
可愛がって
くれていた…
祖父の
ように
思っていた
のに…

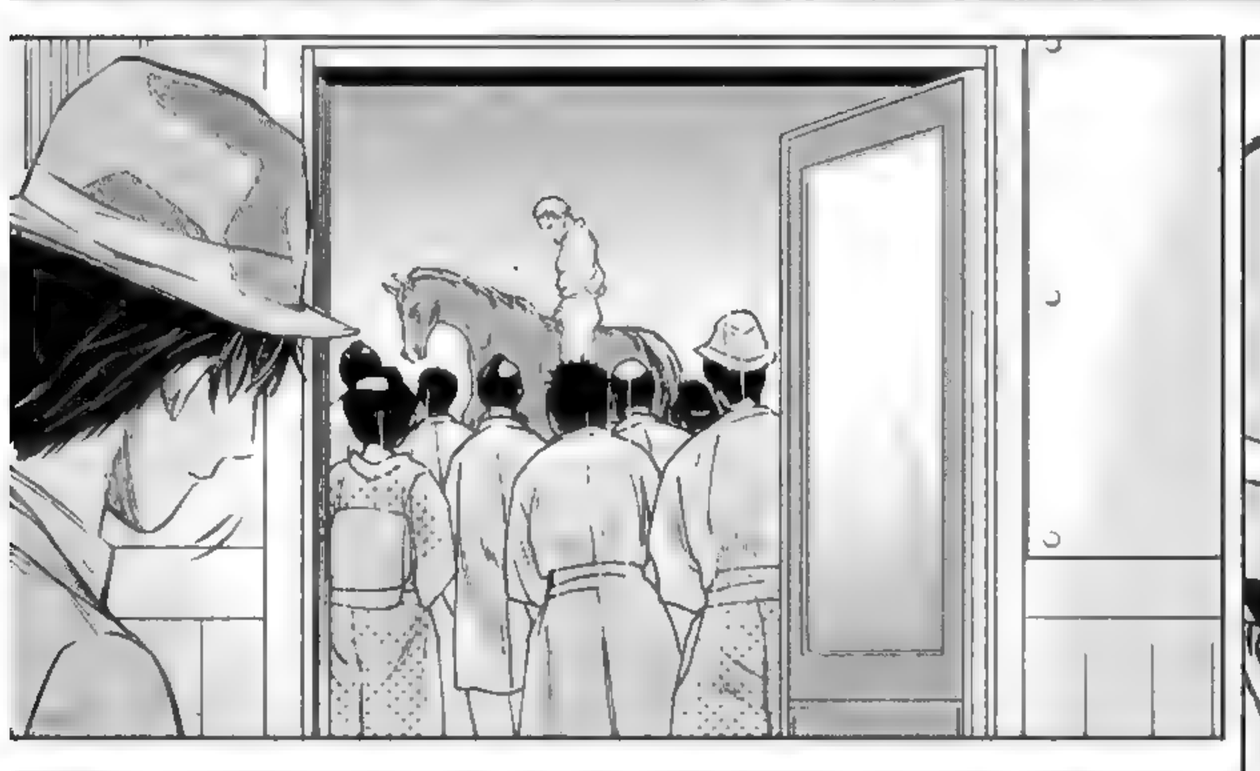
兄さん
なんとか
…

ギシッ

…諦めろ

奴は貧農の出こちらは華族
そういう事だ








ア
ア
ア
ア
ア
ア
市中引き回し
当時 重罪人は板に書かれた判決文と共に馬に乗せられ街中を引き回された
※参考文献 日本で本当に行われていた 恐るべき拷問と処刑の歴史 日本史ミステリー研究会(彩図社刊)
あれが華族の宝石を盗んだって奴かい
今では信じられぬ事だが 日本でもかつて処刑は大衆の娯楽であった
一八六〇年代に妙齢の美女が「火あぶり」にかけられた時は「三島神社の祭礼より賑やかな人手であった」などと言い伝えられている
たかが盗みで斬首とはな！
へっ 欲をかくからこうなるのよ
おい！あれ 愛州家の……
！

ザァアァア…

洞門家・・・!!

なんてむごい事を!

あんな年端もいかぬ少年に首をはねる様を見物させるなんて・・・・

はあ?

グ




首斬り家
洞門家
八代目当主
何百という罪人の
首をはねてきた
「死神」
洞門 沙夜だ


……おっ……
……女⁉
死神……⁉


死神ーーっ!!
ザワワッ!!
ああ恐ろしい!!
ザワ
ザワ
いよいよ首が飛ぶぞ!

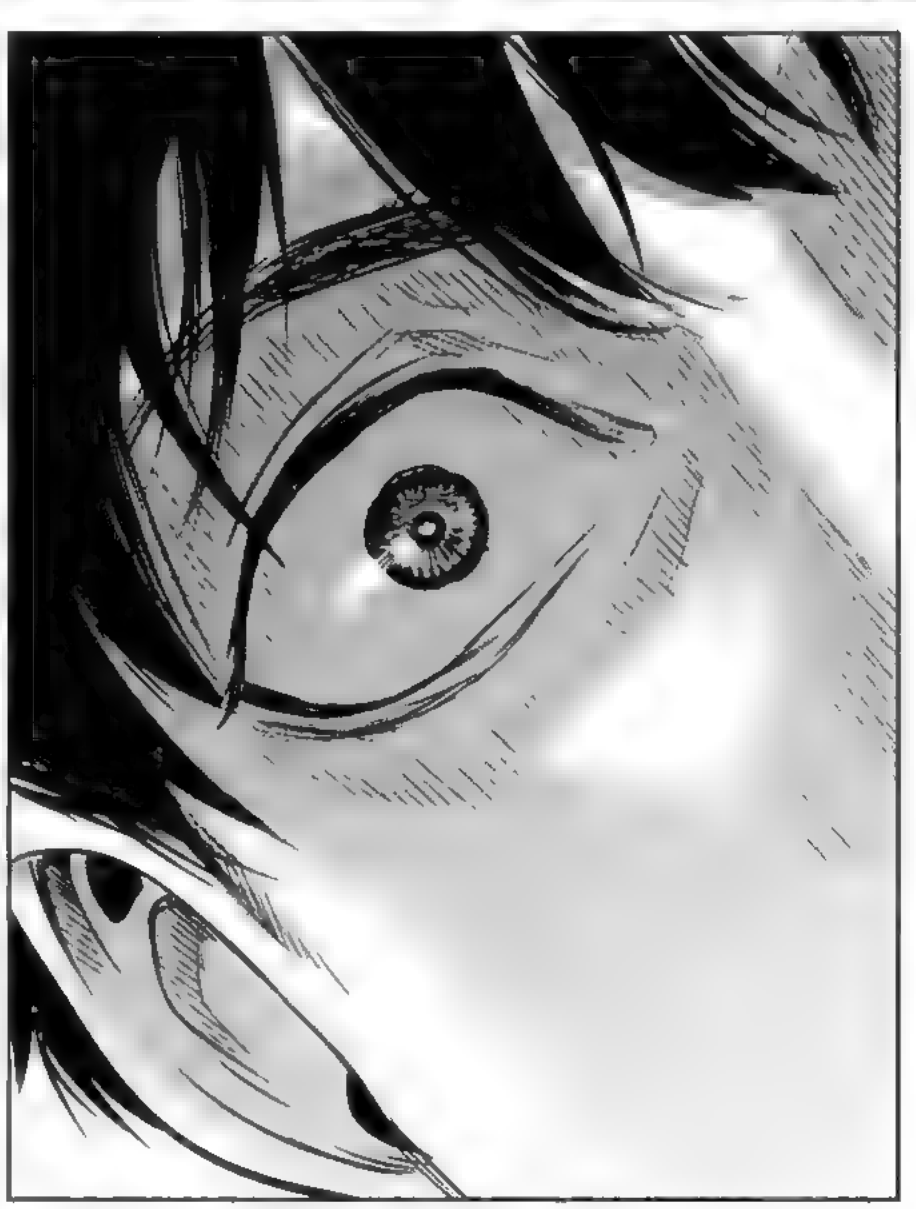

ザァァァァァ




なんだ……? 言い残す事があるなら言え
ブツブツ…

愛州家の奴らは地獄に落ちろ!!

血も涙もない偽善者どもめ!!








学のない愚図だと
牛や馬のように
安い賃金で
こき使われっ……
ザァァァァ
二十年も仕えたのに
この仕打ち……
奴らが気にしてるのは
体面だけだ!!
執事も
楽じゃあない
のねえ……
ザワ…
金持ちってのは
怖えもんだなあ
そんな
!
あんなに
優しかったのに
……
へっ 欲を
かくからさ
苦しめてしまって
いたのか……!
知らな
かった……
……
兄さん…

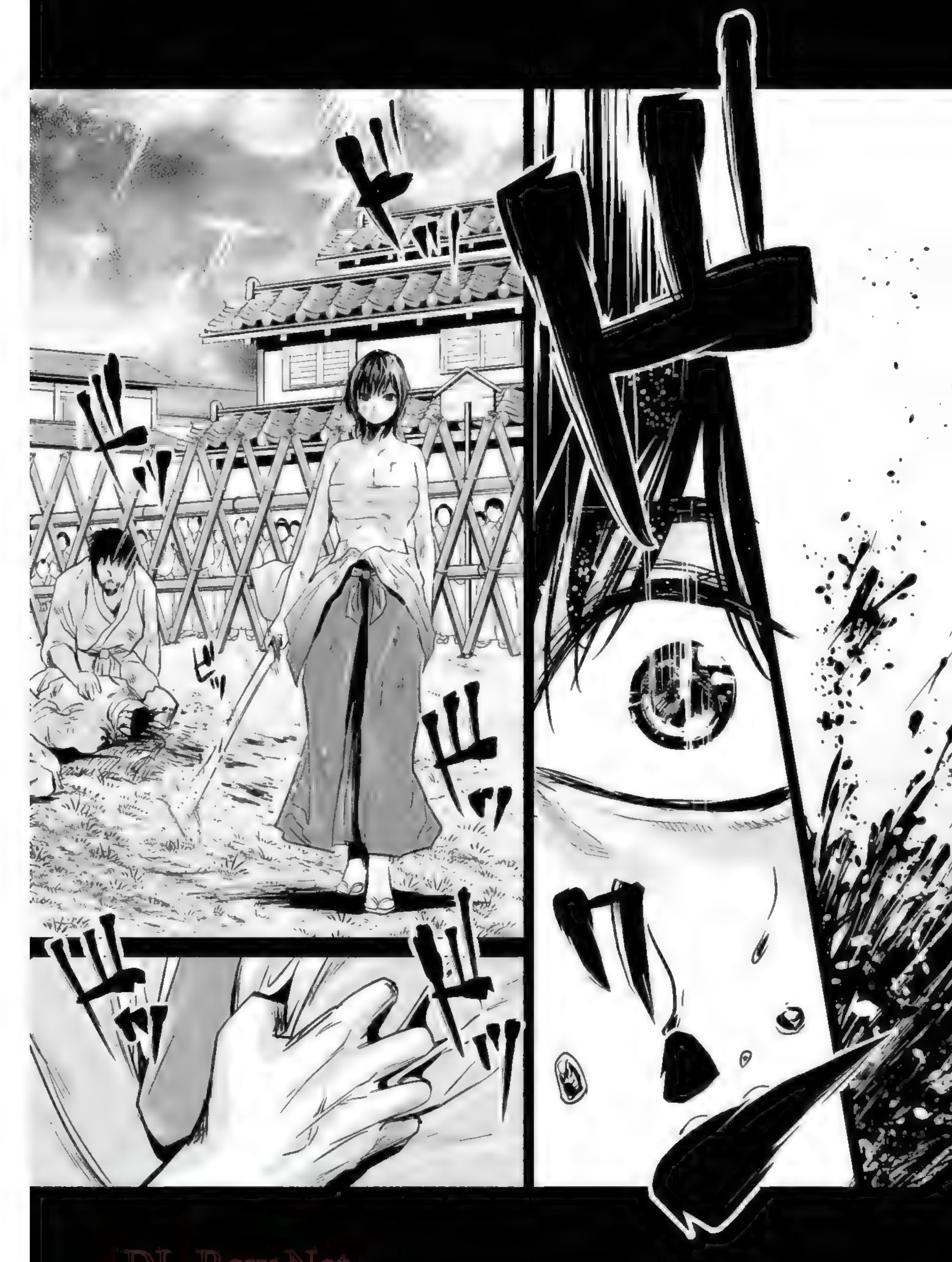

僕は‥‥やっぱり帰るよ‥‥
これ以上‥‥見てられない
‥‥そうか
愚かだな
恨み言が遺言とは
ばっ


スッ
人の価値は
死に様で決まるというのに



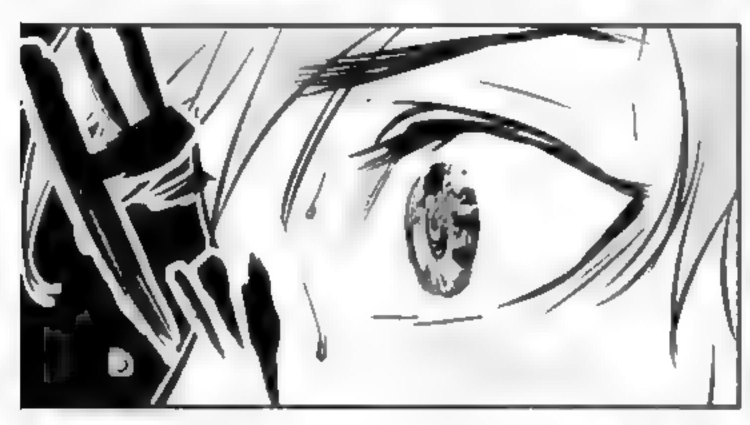




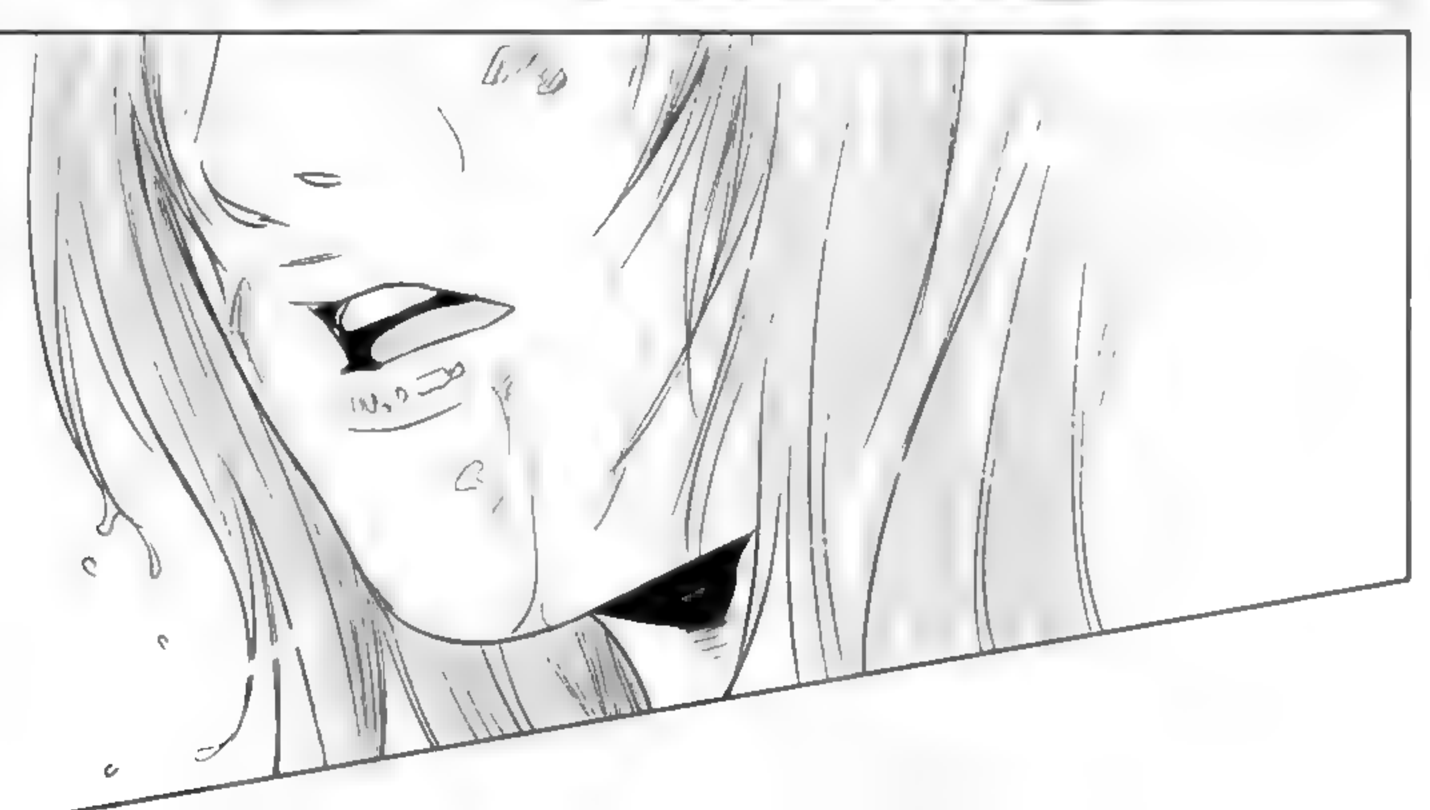

ドッ
ドッ
ビッ
ドッ
ドッ
ドッ
ドッ


ピクッ
…え??
ドクン
ドクン
今…今のは…
ドクン
ドクン
なんだ…!?










バッ
…っおい!! 幸乃助!?
幸乃助!?




バン
ッ
幸乃助!!
お前
どこに
行ってた!?


急にいなく
なるから心配
したのよ!?
まさかお前
処刑に
行ったんじゃ
ないだろうな!?


なんとか
言い・・・・
バシッ

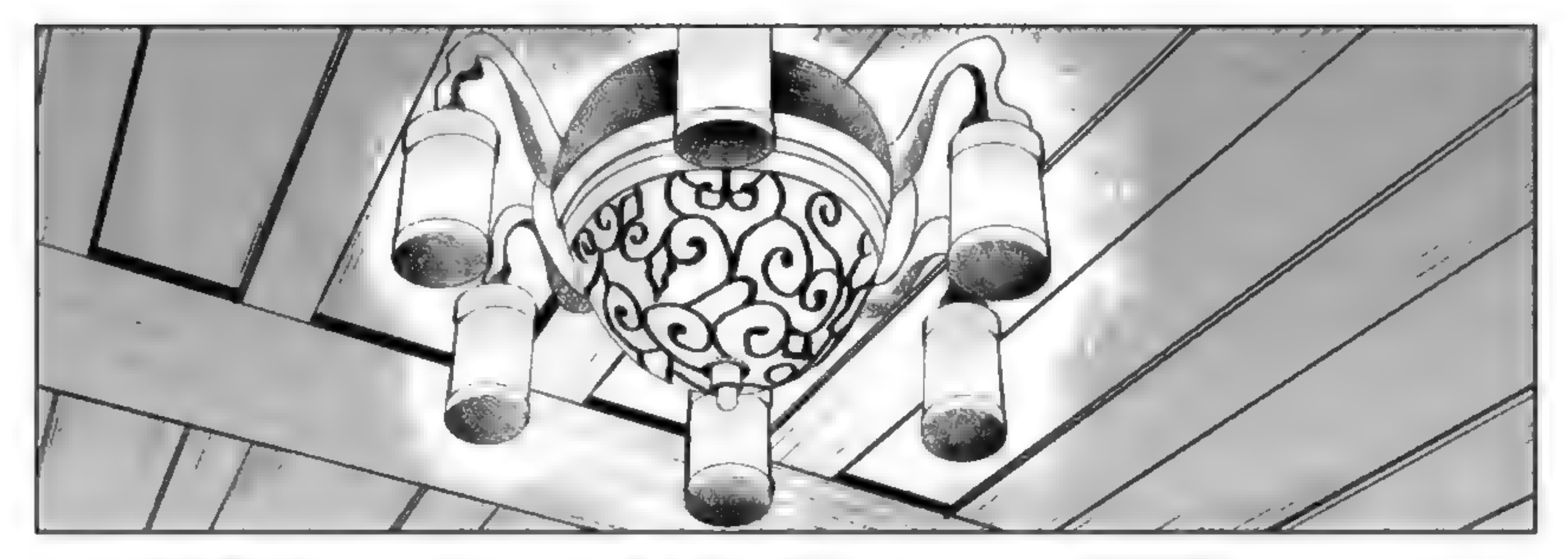

・・・・・・・!!
幸乃助・・・・?






バタン


ああっ……幸乃助のあんな目……初めて見ましたわ
どうしましょうあなた……
落ち着けっ……医者を呼ぶか？








……助……
幸乃助……

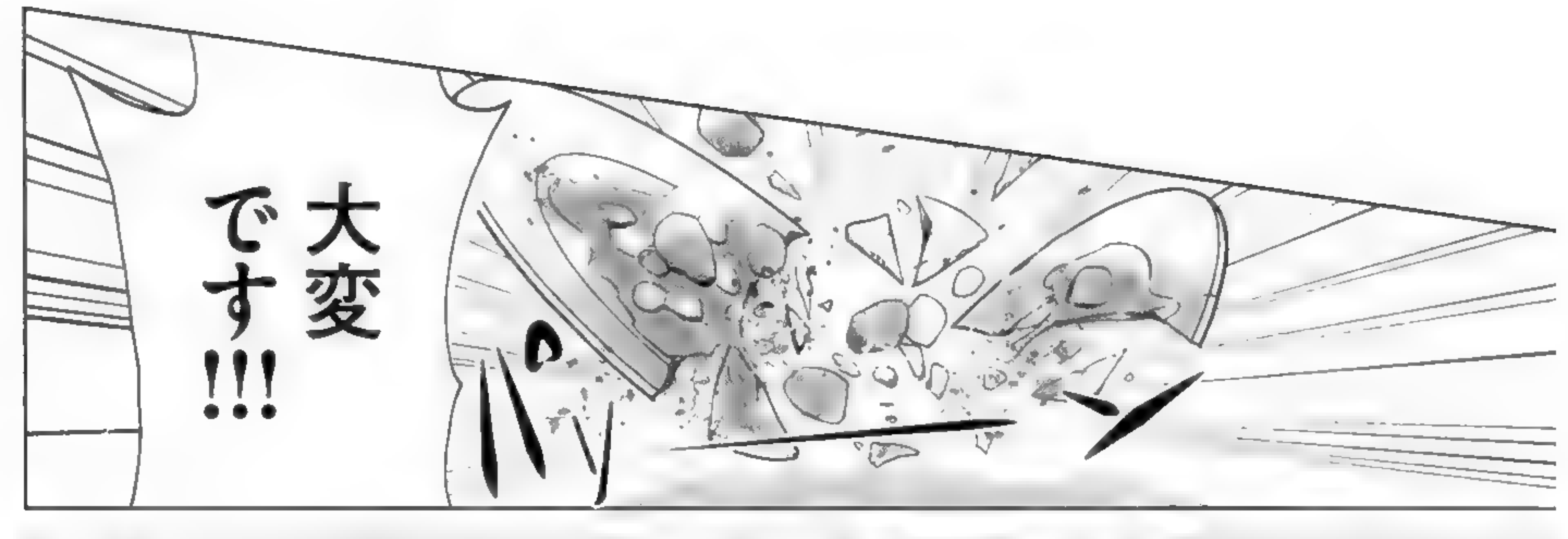

幸乃助……
君は……!!
処刑の後は躰が昂るのだ……
鎮めてくれ……


洞門沙夜……
洞門沙夜……ッ!!
洞門沙夜……!






ガッ
ユラァ…


大変です!!!
パ


幸乃助さまが……!
どこにもいらっしゃいません!!!
ダッ


かっ……母さん!!
くらッ


ああ……っあなた!どどっ……どうしましょう!!
ゆ……誘拐よ!!警察に……
ガタッ
まさかっ……よく捜したのか!?


ギイ…


アトリエだ
何かあった時 あいつはアトリエに籠もる
……!! 達臣様!

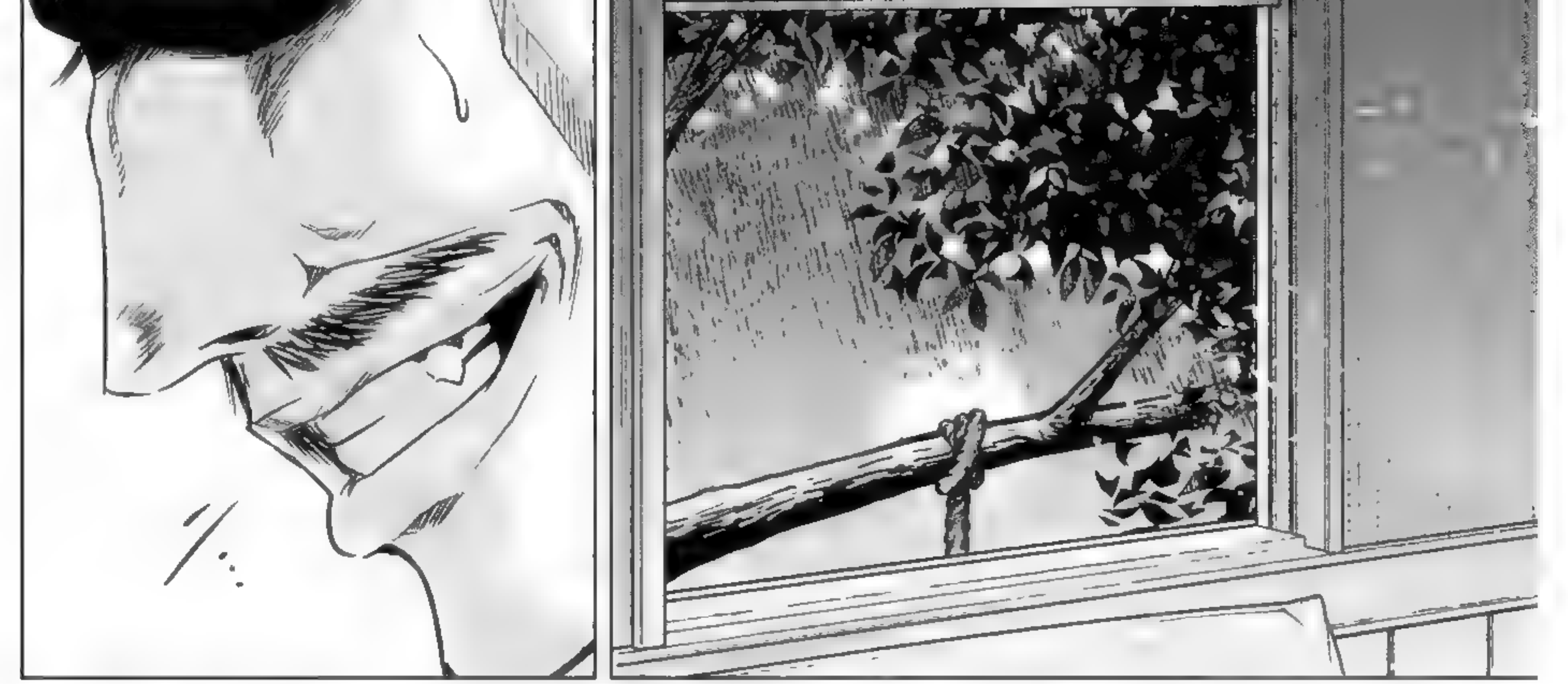

ですが鍵がかかって…… 呼んでも返事が……
……!!
ガッ


幸乃助!!
大丈夫か!!
ガッ
ガッ
ガッ
!! 幸乃助


ガシャアッ!!
ハア
ハア…




……!!
……これは!?



あいつめ……!!

第一話 終


人の価値は
死に様で決まる
はっ
はあっ
ザッ

明治四年

華族（かぞく）愛州幸乃助（あいすゆきのすけ）

第二話 情欲の獣






……あの時の……!!

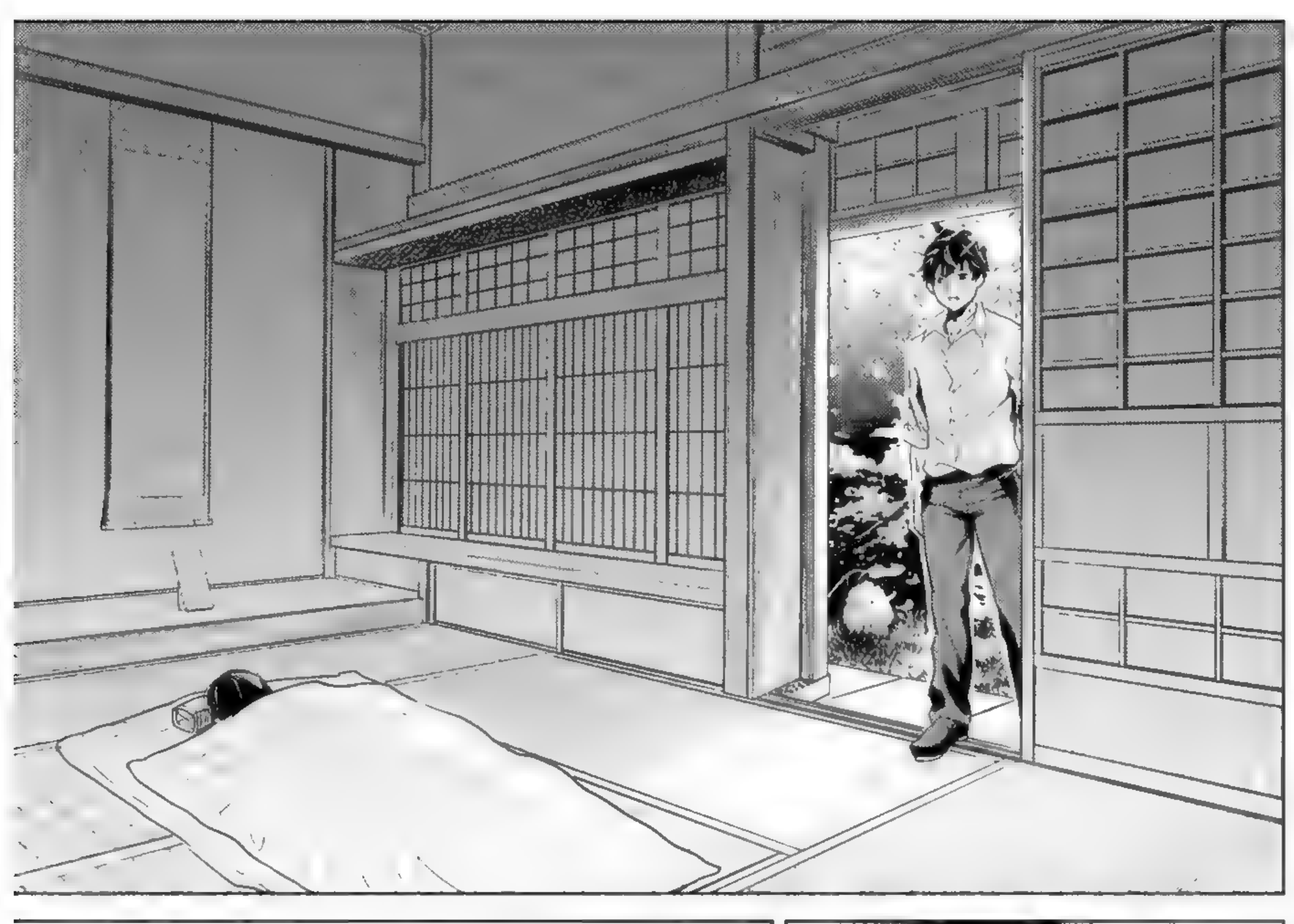

……いや……その……
洞門沙夜に……会えるだろうか?


処刑の後で疲れておりますので……
明朝 改めていただけますか

……当主に?


……そうか
申しわけありませ……


ぱっ
!!
なっ……お待ちを!!
幸乃助さま!!
ダッダッ



ドクン…
ん…
ぎし…


やっと会えた・・・!!




ドクン
ドクン



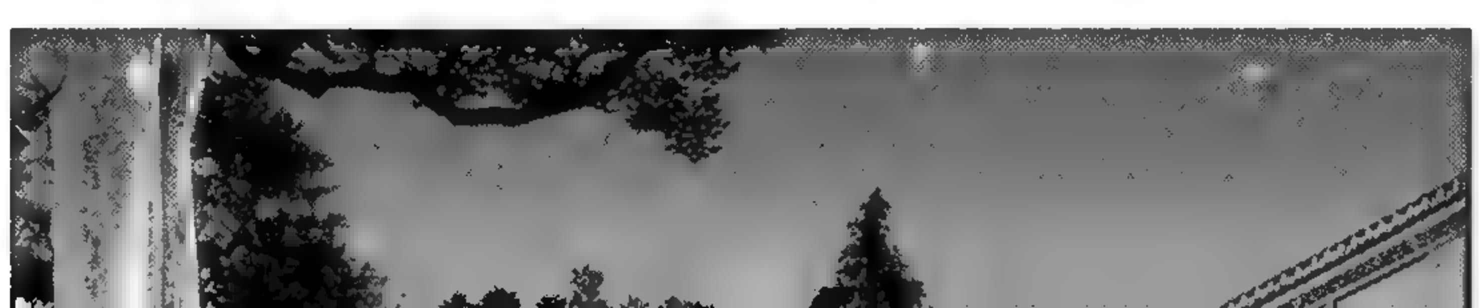

ドクン
ドクン





表(おもて)に出ろ

ここでは血の始末が面倒だ



待ってくれ！話を聞いてくれ
寝ぼけた事を言うな
勝手に人の屋敷に忍びこんでおいて
道楽放題で金に困ったか？
スッ
華族が泥棒とは世も末だな
違う!!
見苦しい大人しく白状……
僕はっ……

僕は
君に会いに来た
!!









こんな気持ちになったのは
生まれて初めてなんだ
処刑を見た時からずっと君の事ばかり考えている
夢にまで見た……僕は……
君を
抱きたい!!!




……何を言っているのかわからんな
女が欲しくば廓にでも行けばよかろう
違うっ……君でなくては僕は……


近寄るな
私は「死神」だぞ




ズッ
ブシュ
グッ


死神なんかじゃない！
同じ人間だ!!
君と僕で一体何が違うというんだ!?
教えてくれ!!

いくつの時に人を斬った？








華族に
生まれていれば
斬られた
だろうか？
斬った
だろうか
？




明治の
世になり
身分制度が
なくなった
わけじゃない
作り
替えられた
だけだ


そしてその頂点に
いるのが……
お前だよ


僕は
……
……幸乃助


お前と私で何が同じだというのだ？


教えてくれ
幸乃助!!
幸乃助さま!!
お前…な…何をしてるんだ…
心配したぞまったく……
幸乃助!! こんな場所にいるところを人に見られたらどうする!
お前は華族なんだ首斬り家なんかと――


ぎゃはあっ!!
ズザァッ
な…
な……
旦那さま!!
旦那さまぁ!!
幸乃助さまっ…なんて事を!!


僕は・・・・
馬鹿だ・・・・

そりゃあ
お前
じゅぷ…
じゅぷ
振・ら・れ・た・
って事よ


なんだかんだ
理由つけちゃ
いるがな
結局
その気がねえ
ってわけさ



ギン
なかなかいい眼をするようになったじゃねえか
獣の眼光だ

獣・・・・?

男ってのはな誰もが獣を飼ってる
お前も目覚めてきたのさ
血と汗にまみれた「情欲」の獣にな!


洞門沙夜に
振られて……
たまらないいんだろ？
爆発しそう
なんだろ？
……！
ついて来い
獣の飼い
慣らし方を
教えてやるよ
江戸の頃より
武人たちの
集う場所
今宵 攻めこみ
たるは——


不夜城（ふやじょう）
一時間
二圓十銭


ド
吉原よ
旦那！どうですか！
ザッ
一時間
一圓二十銭
すごい……
ガラ
ガラ


ここが……吉原……!!
夜中だというのになんて明るくにぎやかなのだ……


どうだ？楽しくなってきたろう
し……しかし兄さん！
僕には……こんな所――

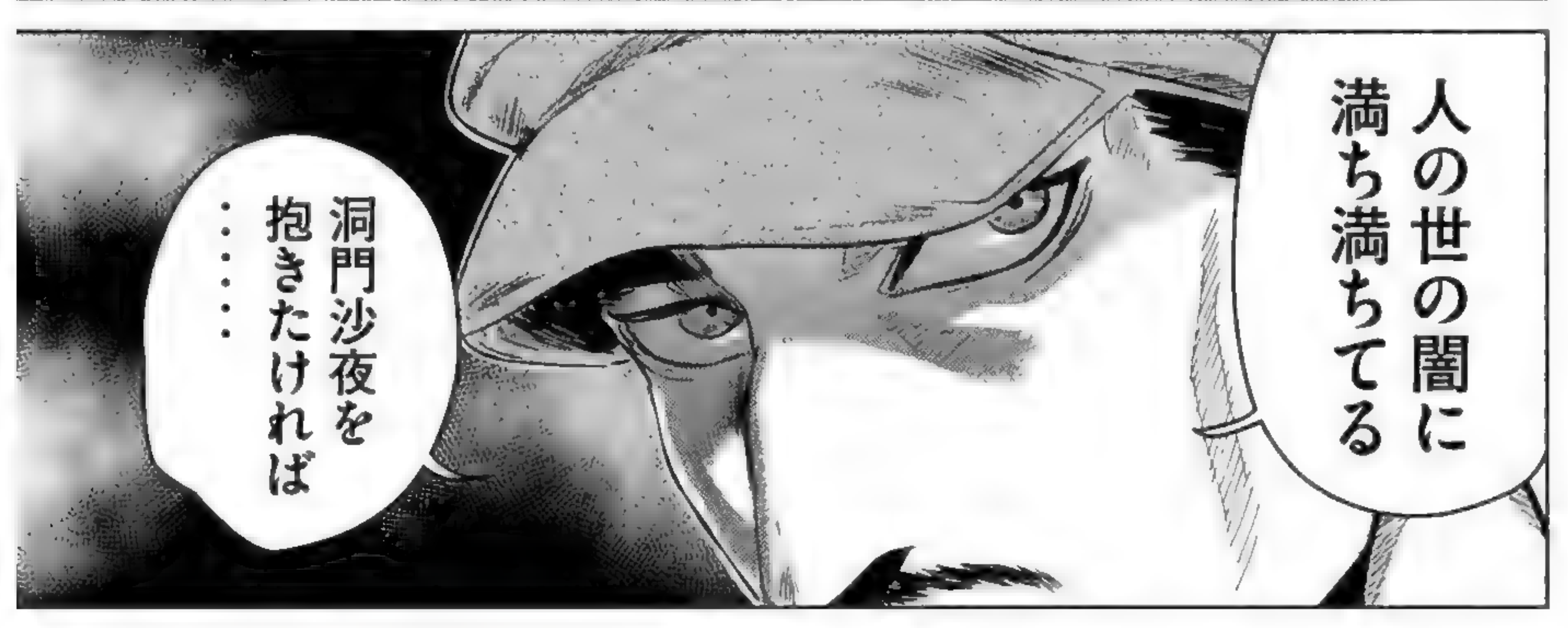

……いいか幸乃助


俺には洞門沙夜の気持ちがわかるぞ
お前はあまりにも綺麗すぎる


え……


見てみろ


食いぶち減らしのために親に売られた遊女たち
その躰を金で我が物にしようと息巻く野郎ども
一見華やかに見えるこの町も‥‥


人の世の闇に満ち満ちてる
洞門沙夜を抱きたければ……

鬼と化せ
澱みに塗れた不浄の鬼に




よう
来なんした
さ 上着を
おくんなんすえ
葉桜楼 新造
朝霧
にっ
兄さん
……!
はい上がって
こいよ幸乃助
ピタ
獅子は我が子を
千尋の谷に
落とすと言うな



あっ
ああっ……
ピチャ…
ズブブ…
獣がっ……
ギシ…


ギ
ミ
ッ
猛(たけ)り暴れる!
肉を求めて・・・!!
お兄さん!!
待って・・・!
激しっ
ズチュッ
ああっ・・・・・・・
ズチュッ
ズチュッ
ズッ
ズッ




こんな——
こんな快楽が
この世に
存在するのか!!

ハァ
滾る血潮
ハァ
喘ぐ魂!!
ハァ





抱き墜ちてもいい
地獄の果てまで!!

第二話:終

あうっ……

あああっ……

第三話 親孝行

※絶倫の事。

あっ……

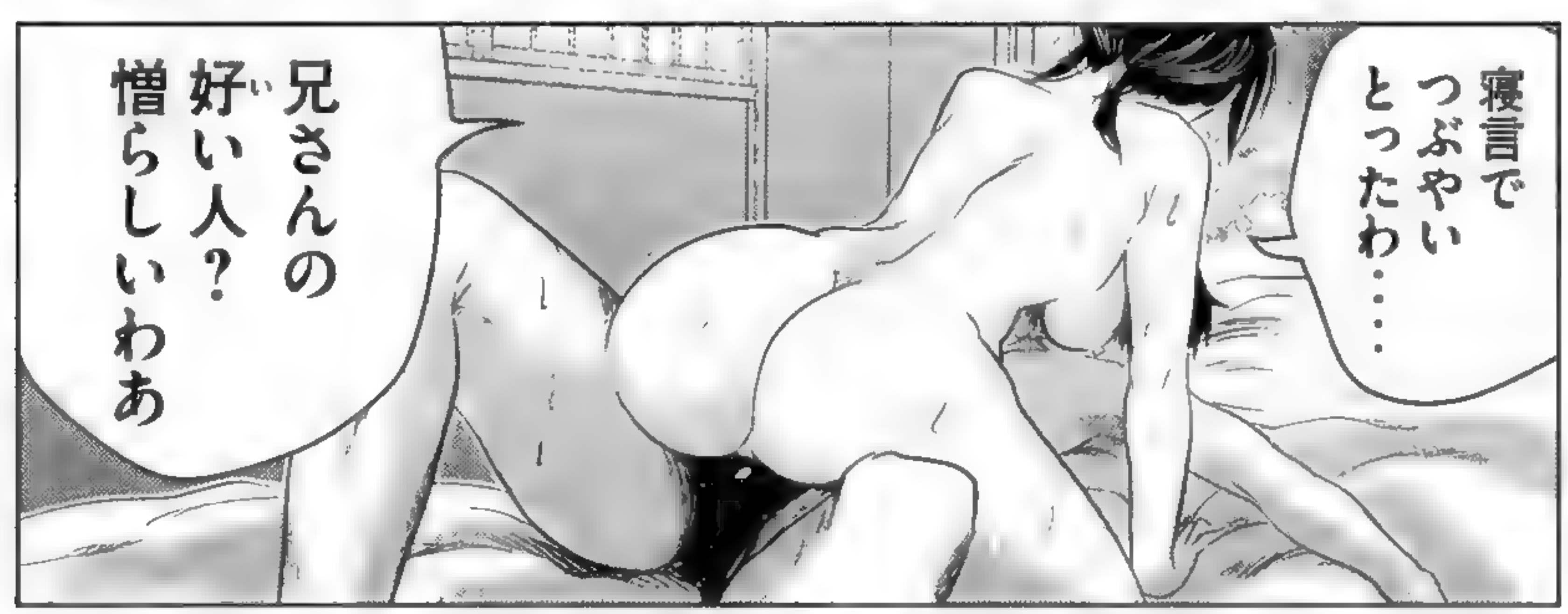
あああっ……お兄さん……

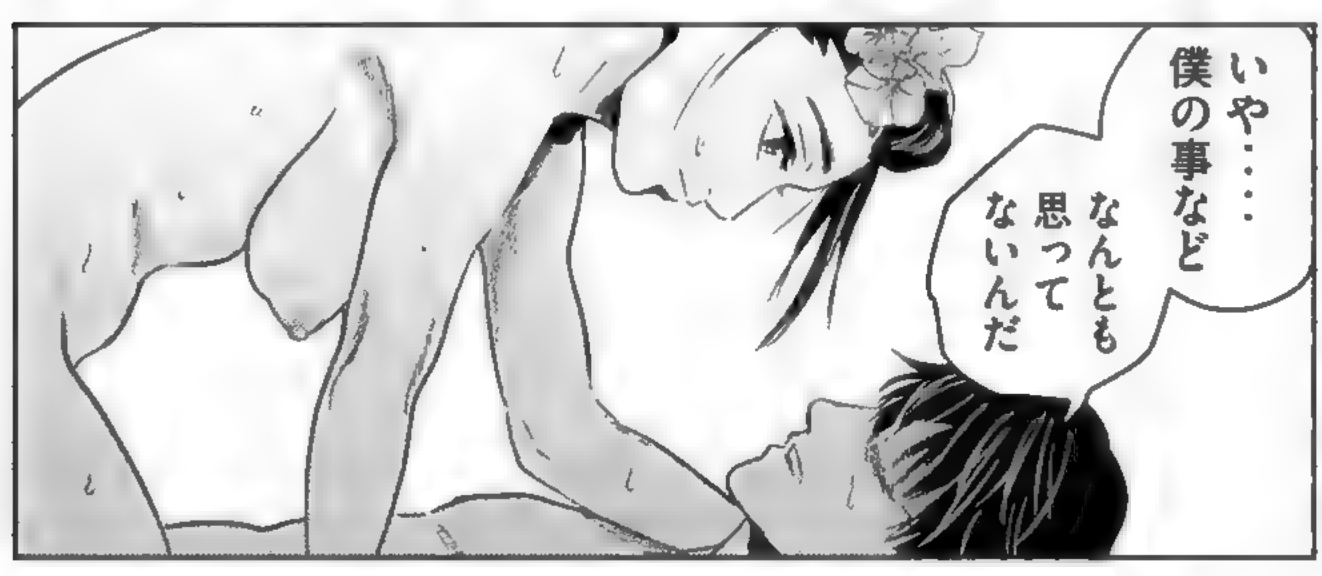
もう朝よ……とんだ腎張やわぁ

うち身体がもたんわ……

あぁっ……

……ねえ……


沙夜ってどなた？
！

寝言でつぶやいとったわ……
兄さんの好い人？憎らしいわあ


いや……僕の事など
なんとも思ってないんだ

なら……

わっちをお抱きんし

忘れられるまで・・・・




!


おっ父と二人じゃ食っていくのも苦しいなんし……
十五の時にここに買われたんすえ


きれいなべべ着れる好きなだけおまんま食えるなんて言われてなあ
………


寂しいだろうさぞかし……
フフ…年季が明けるまでの辛抱ですえ


年季？
私ら遊女は「年季十年二十七まで」なんて言いましてなあ
二十七になれば楼を出してもらえるんですえ
あと四年…頑張りますえ！
故郷に帰っておっ父に楽させてあげんと
…そうか…
…今でも目に浮かびますえ

夕日が沈んで 真っ赤に燃える 田んぼに お山
また おっ父と 見たいなあ・・・・





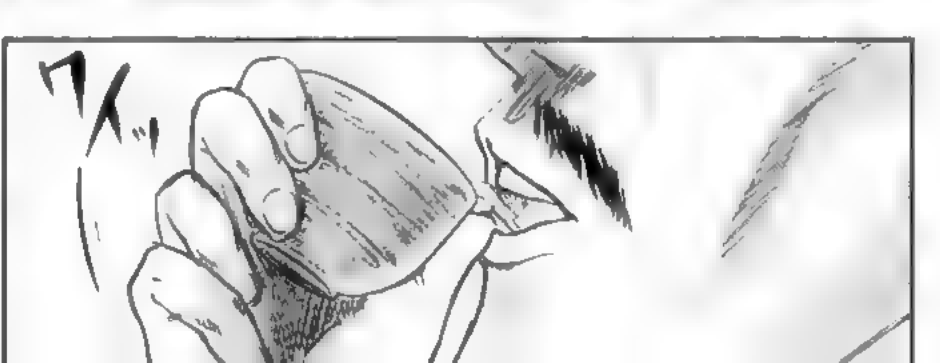

天花茶屋
御抹茶


ガヤ
ガヤ
ガヤ
しかし・・・・不憫なものだな
十代で親のために売られるとは・・・・・・


ガヤ
ガヤ
よくある話さ 帰る家があるだけマシってもんだ
それより どうだ？男になった感想は
ああ・・・・とても素晴らしかったよ いい経験だった


そうだろ？おい 酒をくれ！
はーい


俺たちは人身売買で売られた女を買い 思いのまま欲望を発散し
遊女どもが病気になろうが家族を恋しがろうが知った事じゃない

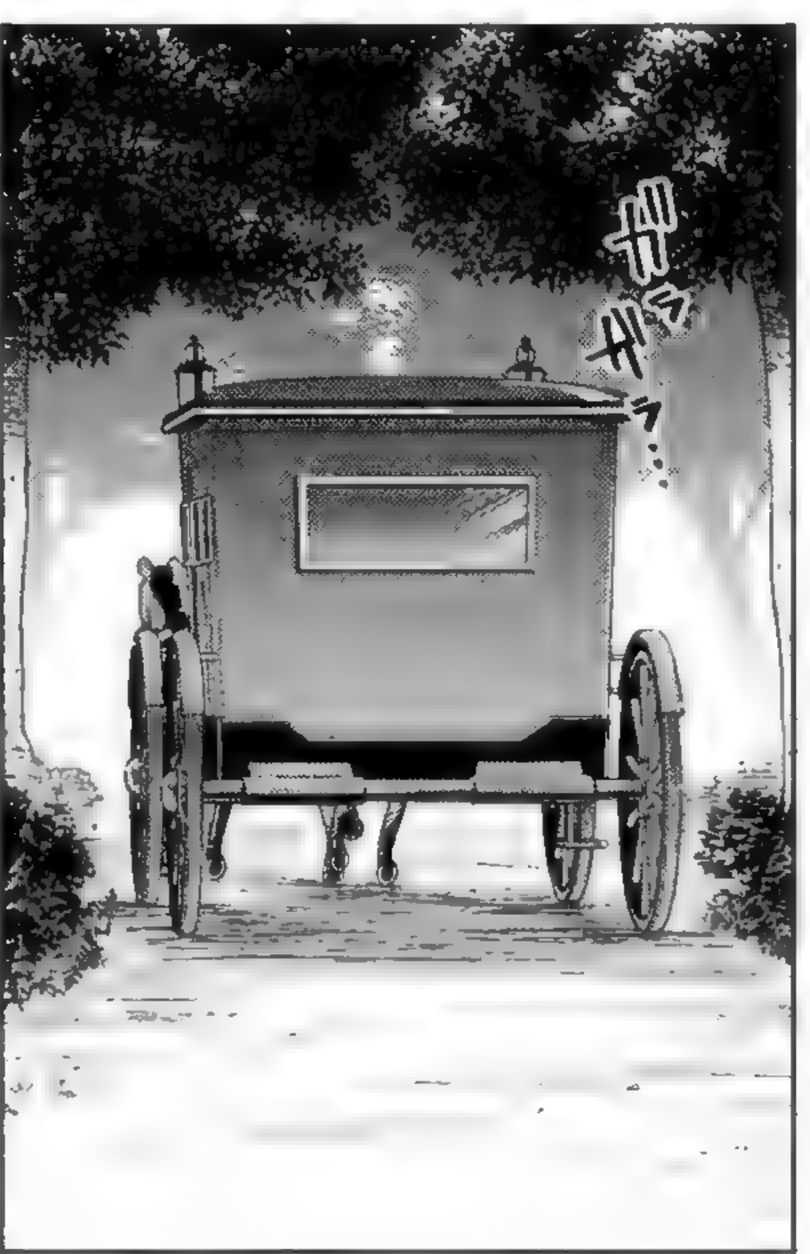

グイッ

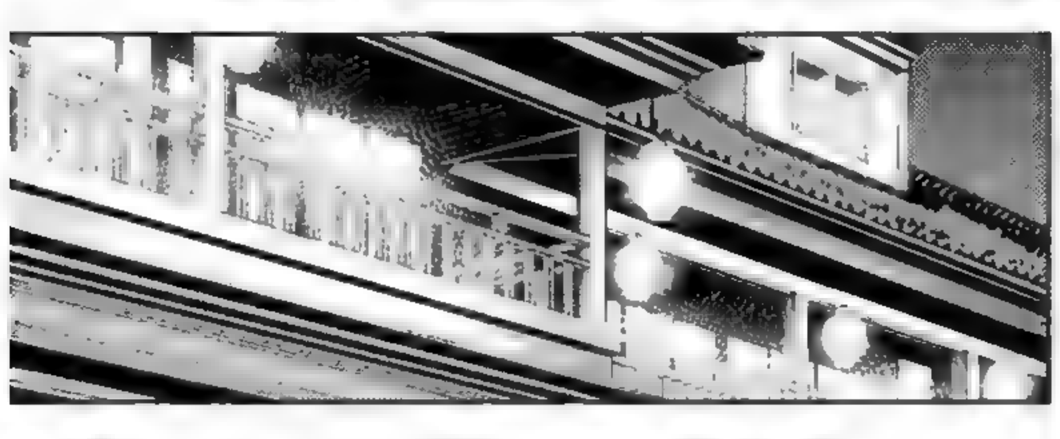

それが吉原だ


決して変わらぬ
この世の闇さ






ガラガラ…




あらあ
お兄さん
！
また
いらしたの
本当に
好きねえ


…いや
実は…

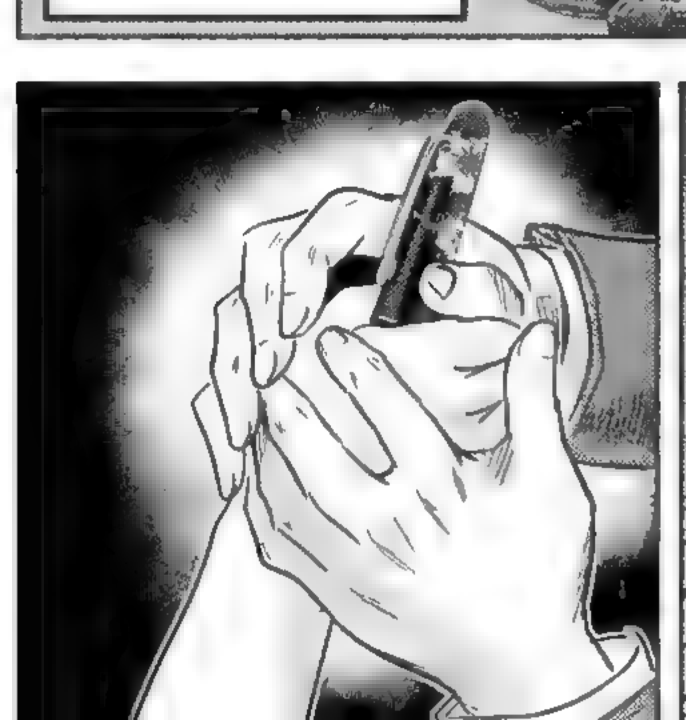
これを取りに行ってた



…僕の宝物の万年筆だ……







君にもらって欲しいんだ

僕を男にしてくれた初めての女に








あたしゃ今日はまことに嫌な客ざんしたよ
ガヤ
ガヤ
こないだの奴かい？災難だねえ
花鳥のとこの客は五十円も使っていいって‥
ガヤ


朝霧!! あんた身請けされて故郷へ帰るんだって!?
はぁ～～～そんな神様みたいな客おるんやなあ


‥‥ええ‥‥とてもお優しいお方
本当に‥‥


夢みたいよ

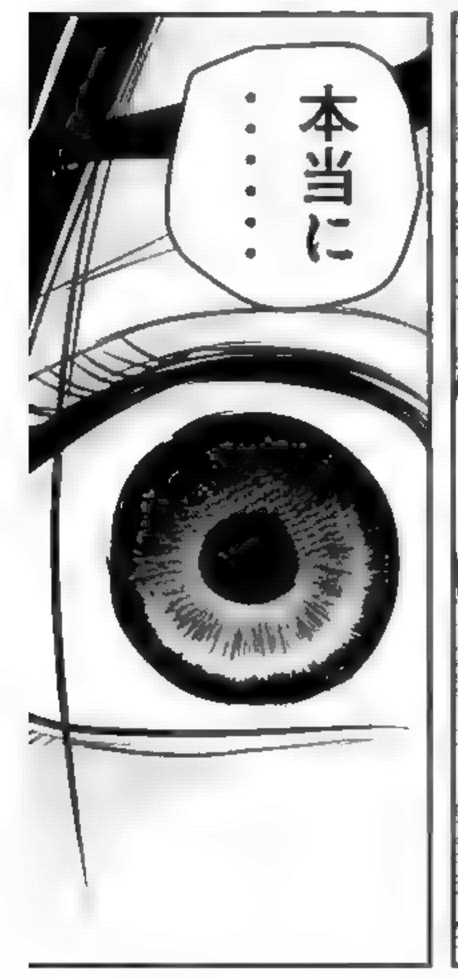

ザッ
おっ……


おっ父!!
どうしてっ……
よう一人で
来れたなあ!!
うちを
迎えに来て
くれたんか!?
……
富……


歳とったのね
でも何年たっても
変わらんわ
べっぴんに
なったのう
お前……


どれ……
よう見せと
くれ……


おお……
白い肌して……
なんと
立派な
女じゃ……


本当に
……

はぁ・・・
はぁ・・・
たまらんのお・・・・
はぁ
きゃあっ!!
ドサッ
おっ父!! 何しとるんよ!
しばらく見んうちにここもずいぶん・・・・
バタ
バタ
がばっ



がばっ
嫌ぁ!! おっ父 やめて!!
む…おふ…
むぐう……
はぁ はぁ
す…すす…… すぐ済ますけ……
!!
いっ…… いやっ……


はっ
はっ…
ふー…っ
ガラッ
どうされましたお客人!
ややっ!! 朝霧なんてことを!!

あ……

残念じゃな！朝霧
せっかく身請けが決まったというのに……

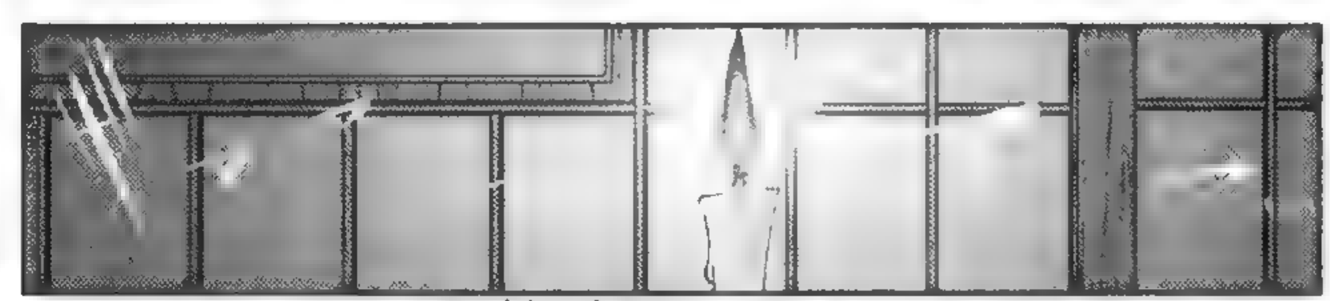
楼主
亀五郎

客人に暴力を振るえば借金を倍にする楼の掟を忘れたか？

ゴロン…







※仁義礼智忠信孝悌の八つを忘れた冷酷非情という意味。

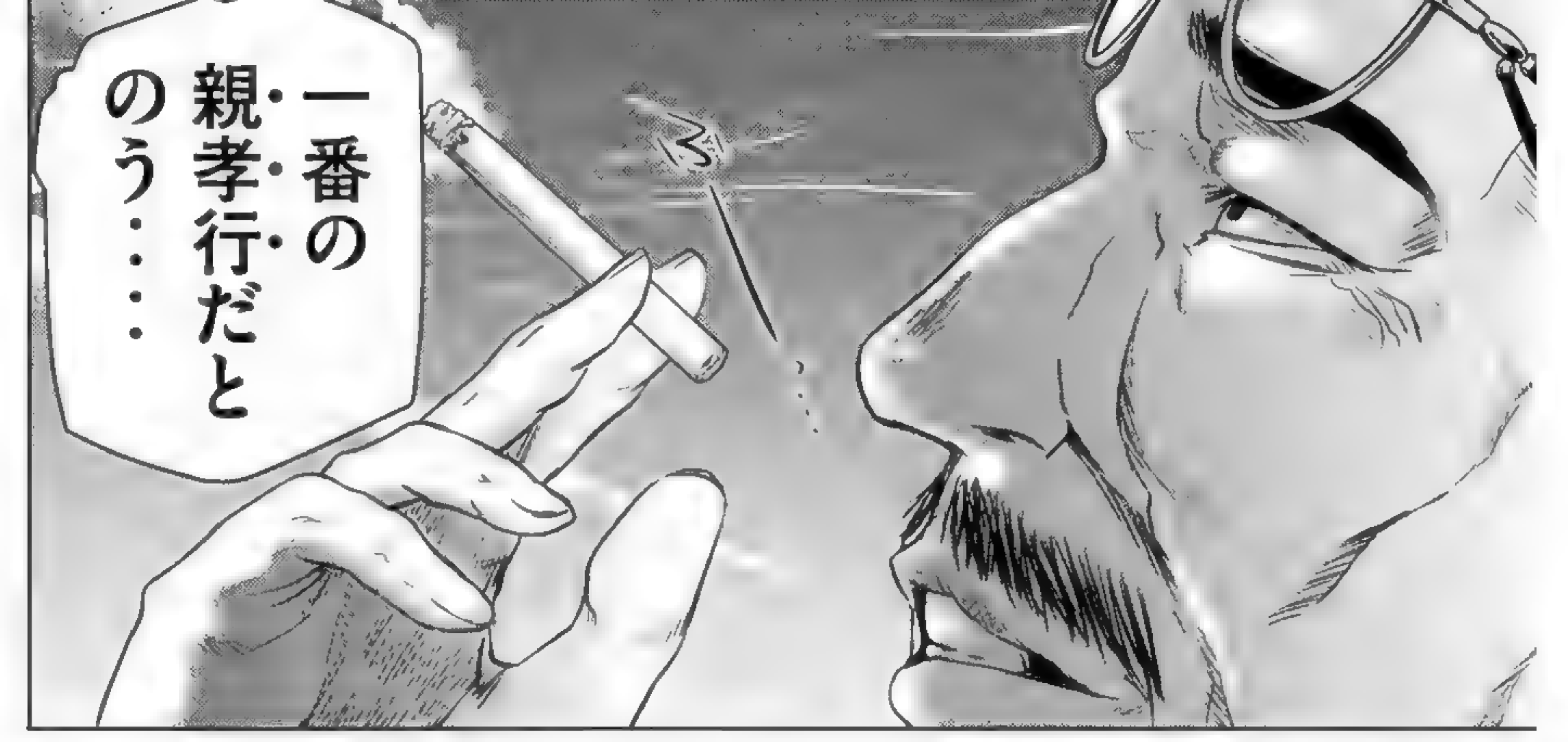


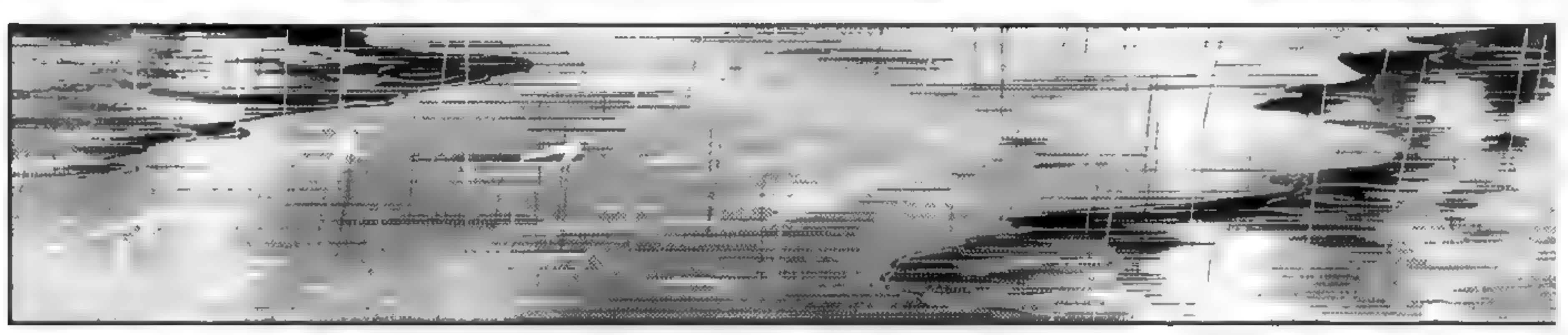




故郷に帰ったところでろくに身体も動かん親父抱えて
どうやって食っていくというんじゃ？
女郎は吉原の中の事しか知らん畑仕事も家事も行商も何一つできやせんのじゃ







一度「苦界（くがい）」に沈んだ女は

死ぬまで出られやせんのじゃ

第三話 終

第四話 眩しい月夜

ドドッ
ドドッ

勘弁してくださいよ坊っちゃん・・・・

旦那さまから一人で外に出すなときつく言われているんですから



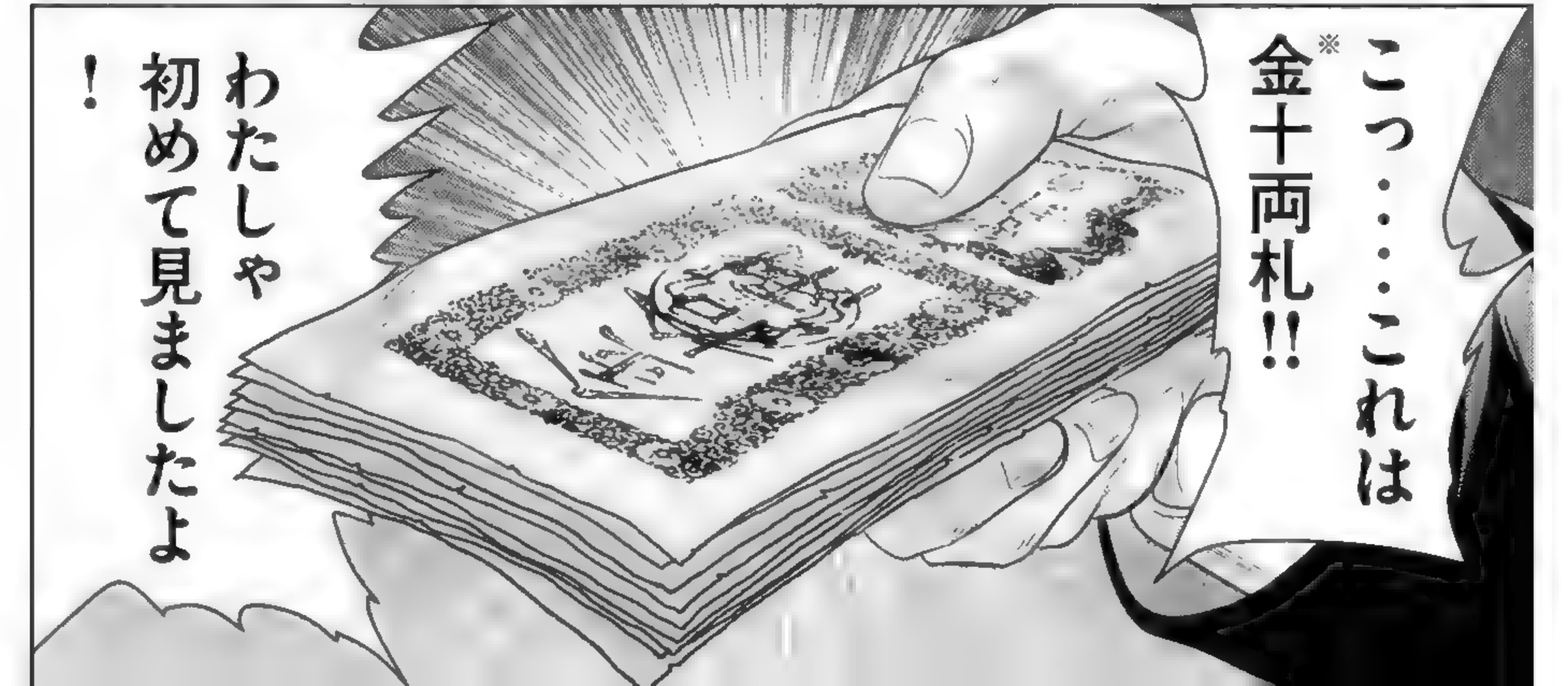




これでっ……頼む

ほえっ!!

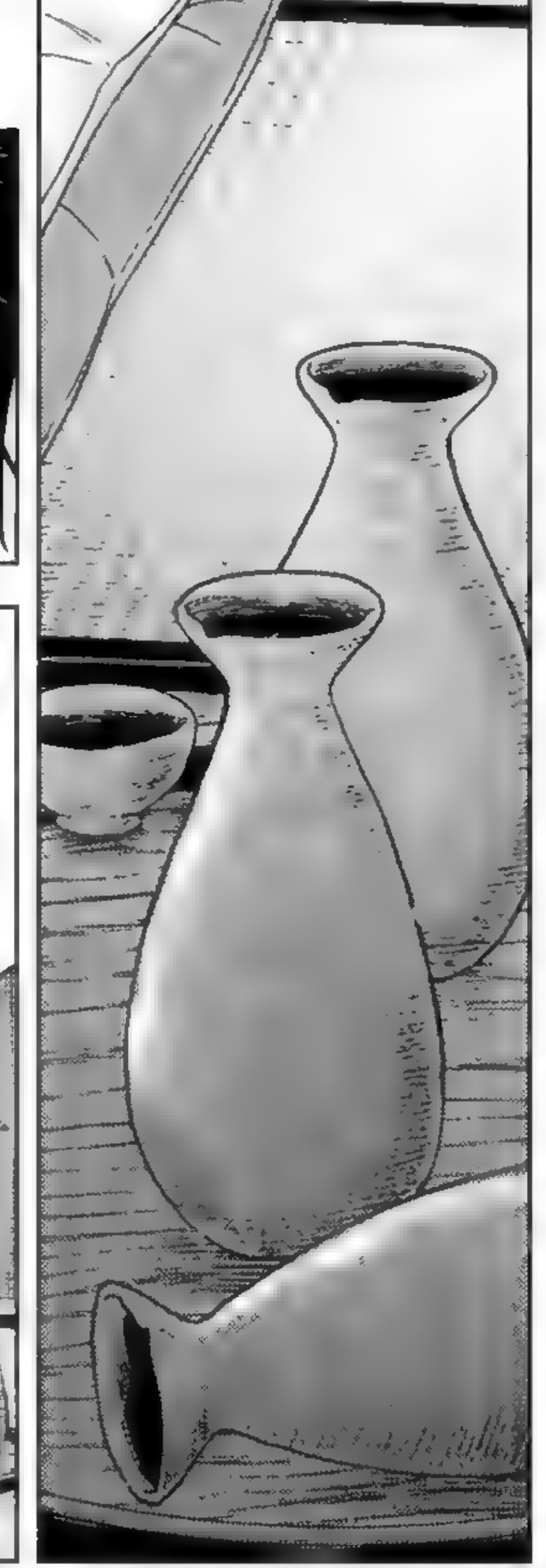
※太政官札。日本で初めて全国的に流通か認められた紙幣。十両札には約二千万両以上の価値かあった。




お任せください
坊っちゃま
どこへでも
お連れします!!
ガラララ
ギャ
ギャ
ワイワイ
ザッザッ
お兄さん!!
どうです
今夜は上玉が・・
・・・朝霧は
どう
なった?
もう故郷へ
帰って
しまったか?
はあ?


……兄さん


朝霧……

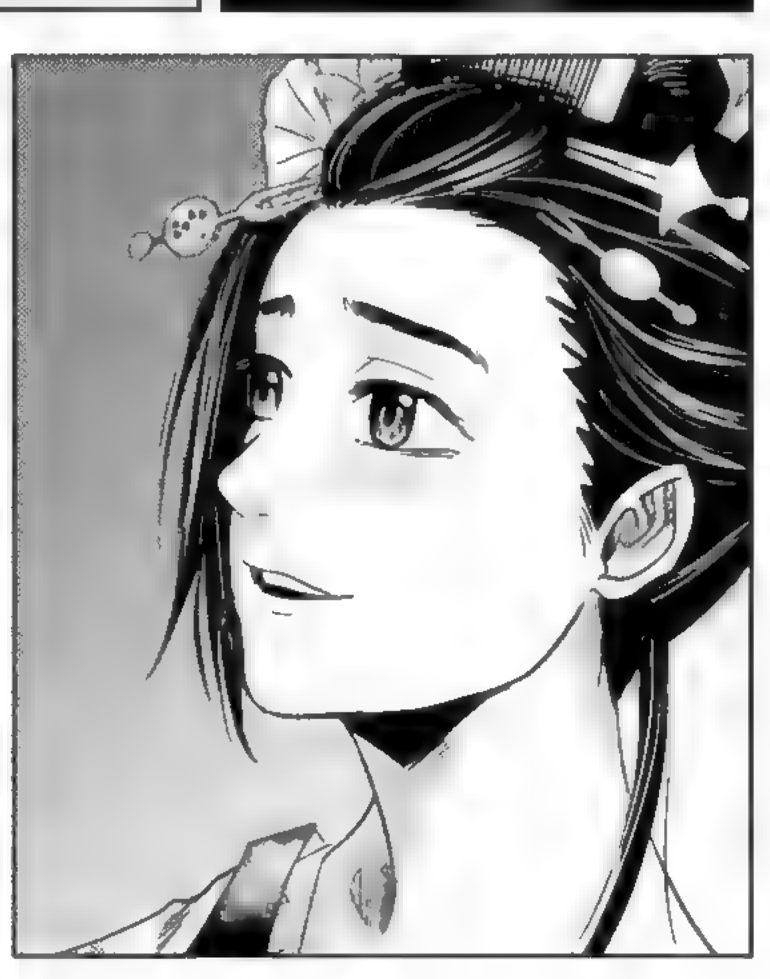




それでねえ・・・・



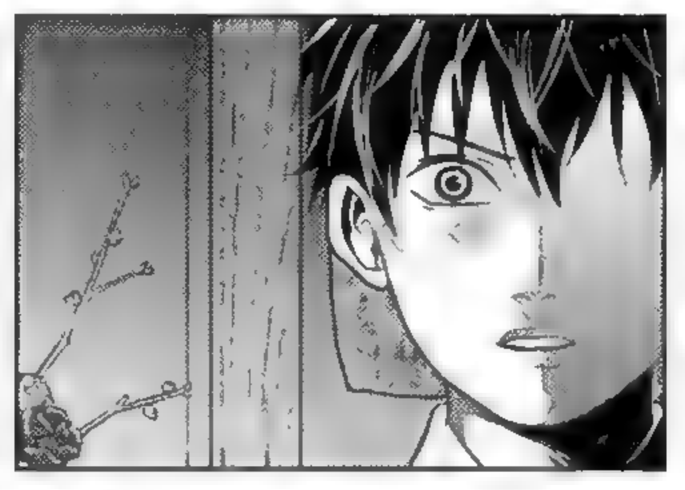
カッとなってついお客引っぱたいちまって・・・・
兄さんにもらった万年筆代パァですわ
・・・・そうだったのか





それに・・・・気づいたんすえ
故郷へ帰りたいなんて泣き言言いさんしたけどねえ


女郎の幸せは花魁になる事なんし
廓落ちした女が昔話に夢見とったんが間違いだったんすなあ




……それに


こうして兄さんもまた来なんした
う……うむ……
嬉しいわあ


フフ…ッ


…っ……!!
……ん




あ……
……はぁ
んっ


ハァ
…兄さん…


うちを好いとる……？
うっ……ぐっ……
ビクッ
あっ……ああっ……!!
ぺろ……
ぺろ
……フフ……
……あっ
ググッ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷっ
……っ……朝霧っ……
はぁ……
はぁ……

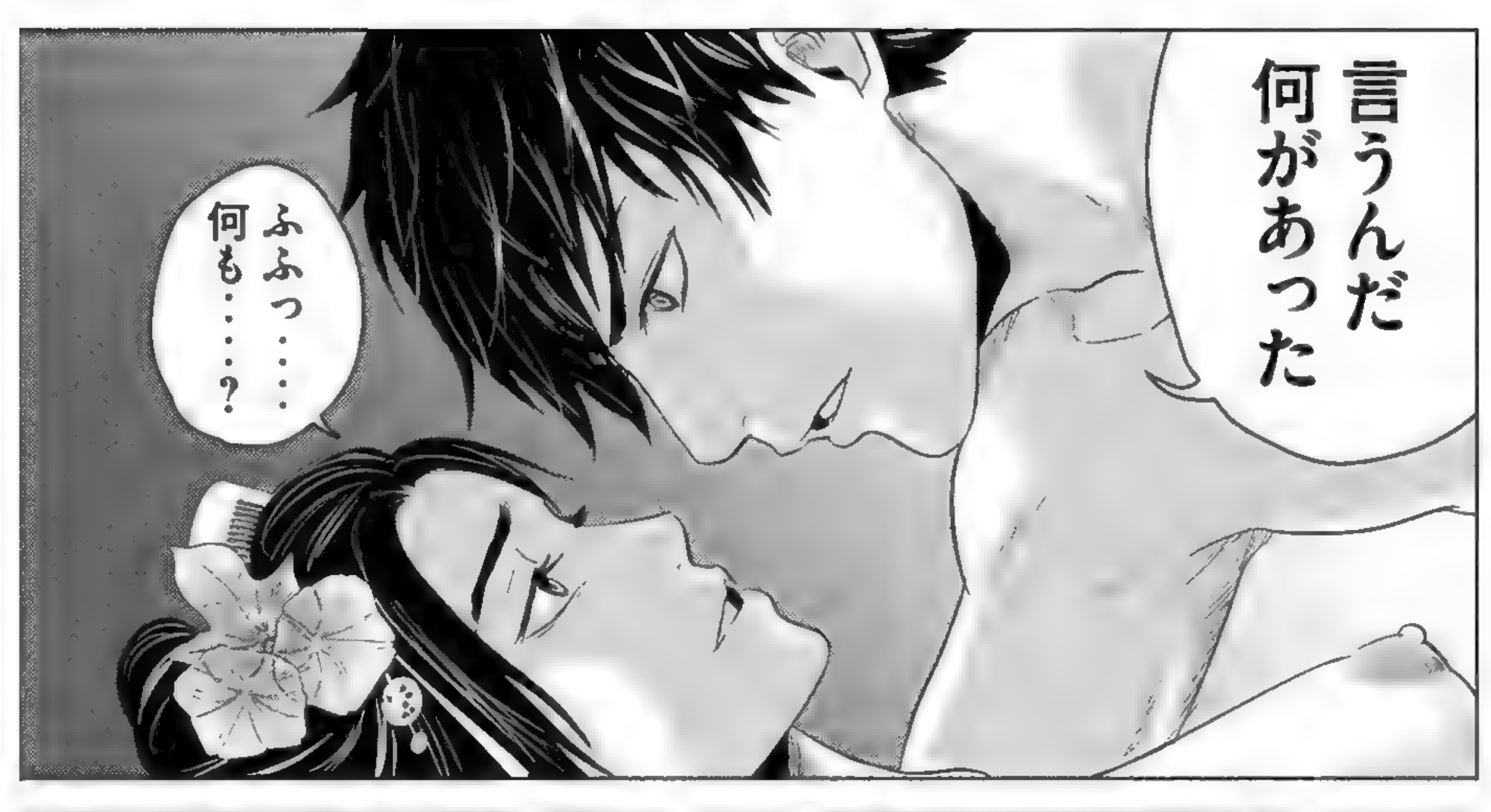
あっ……
うう……っ!
ビクッ
ちゅるる…
じゅぷ
くちゅ…
ふぁ……
はぁ… ふぅ…
あああっ
……だいぶ酔っているな



濡れていない






言うんだ
何があった
ふふっ……
何も……？

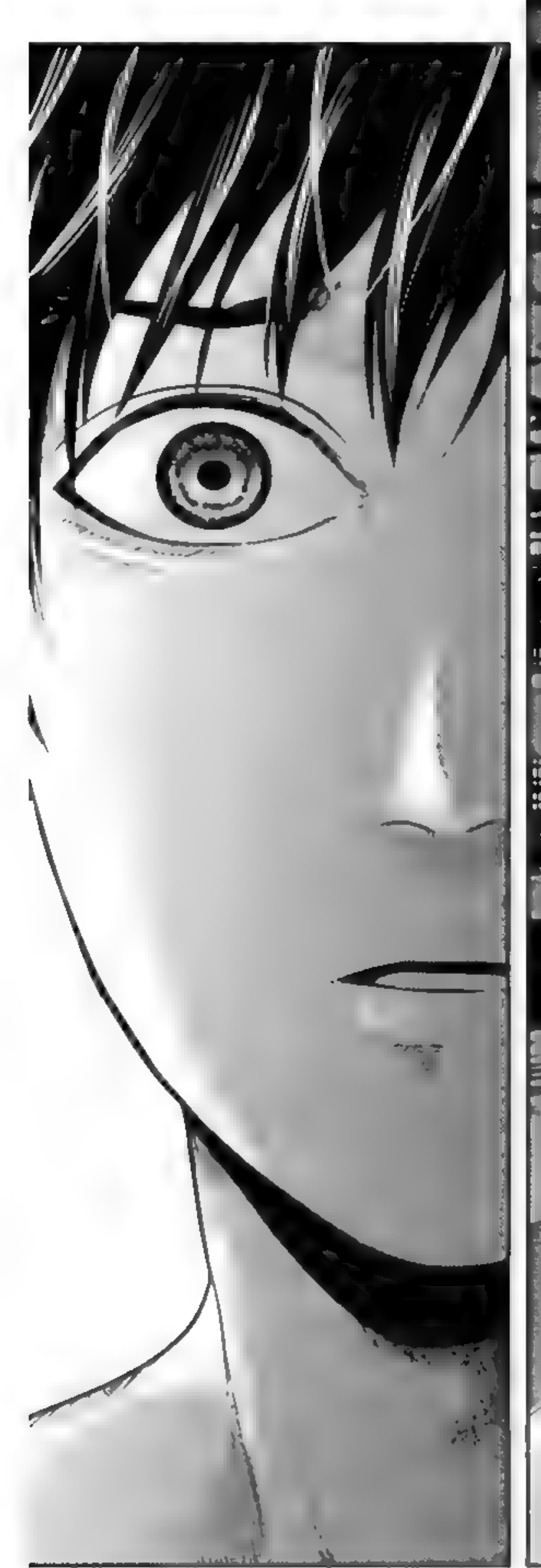

本当に……
ちょっと
しつこかった客を
はたいちまった
それだけ
ですえ……
嘘を吐け


あれほど
父親を
恋しがって
いたろう
金が足り
なかったか？
ならもう少し
上乗せしてやる




……いいえ
お金はもう必要
なさんす
その代わり
……


うちを……
殺してくんさい




……おっ父はもう……
カタ
カタ…
おっ父じゃなかった……


楼主に金もらってうちを抱こうとしたんよ……？
実の娘を……売り飛ばした我が娘を……


もう・・・・
帰る所なんてないんよ・・・・
どうせいつかここでくたばるんだ・・・・
ならいっそ兄さんに殺されたほうが華ってもんすえ・・・・

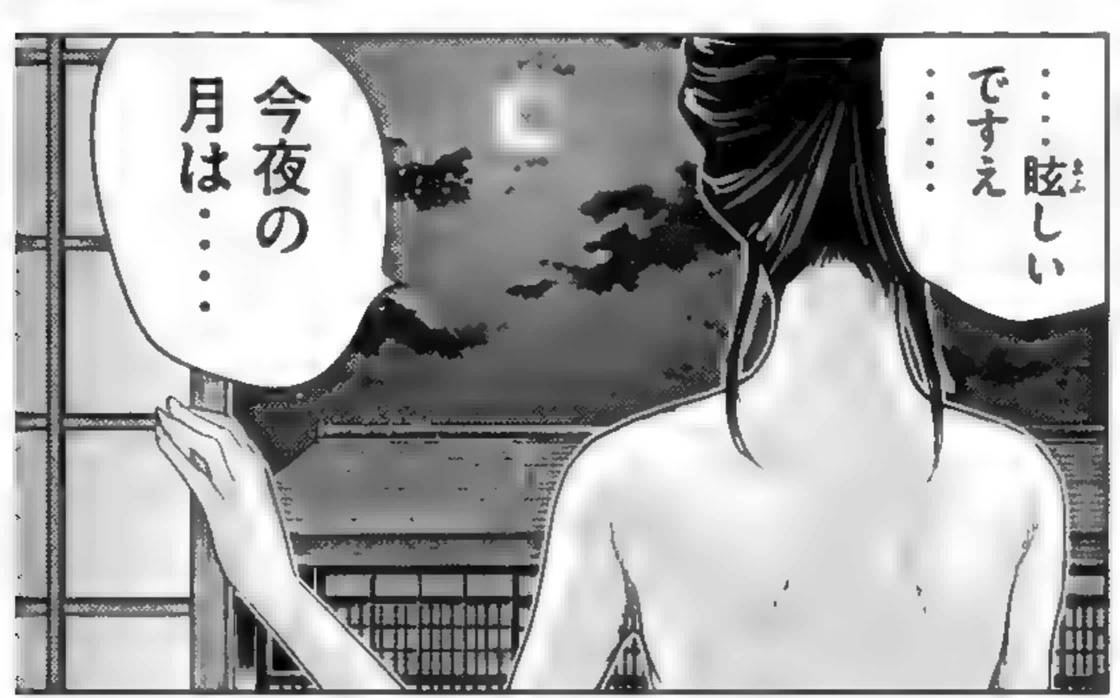
……美しくない





その人はとても
美しかった




今夜の月は……
……眩しいですえ……

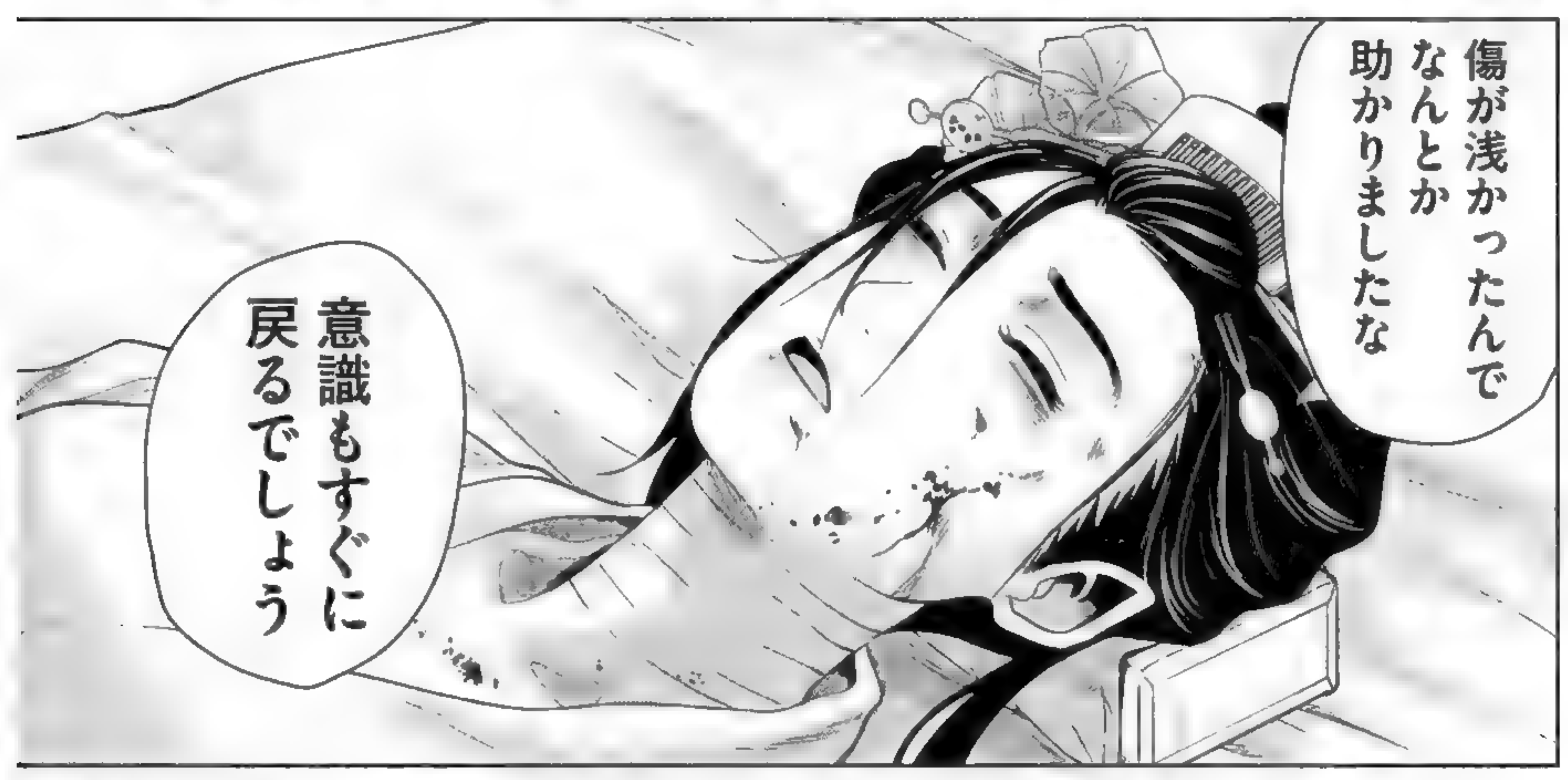







朝霧!!!




傷が浅かったんでなんとか助かりましたな
意識もすぐに戻るでしょう


ほんで？どのくらいじゃ
どのくらいで店に戻れるか聞いとるんじゃ
え？


むむ…まあ二、三日あれば回復するでしょうが
しかし旦那この娘今度こそ死にかねませんぞ
死・・・に損なうんが運の尽きじゃ
生きとるんなら男は買う

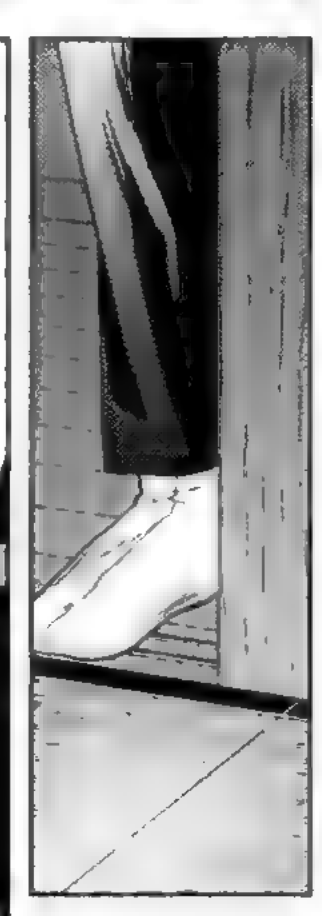

女郎が何人
死のうが
ぷ
わしに責任は
ないわ


ギィ





何?
愛州家の?

ええ 朝霧を贔屓にしておられたでしょうだから・・・・
やれやれ参ったのお
とにかく通せ


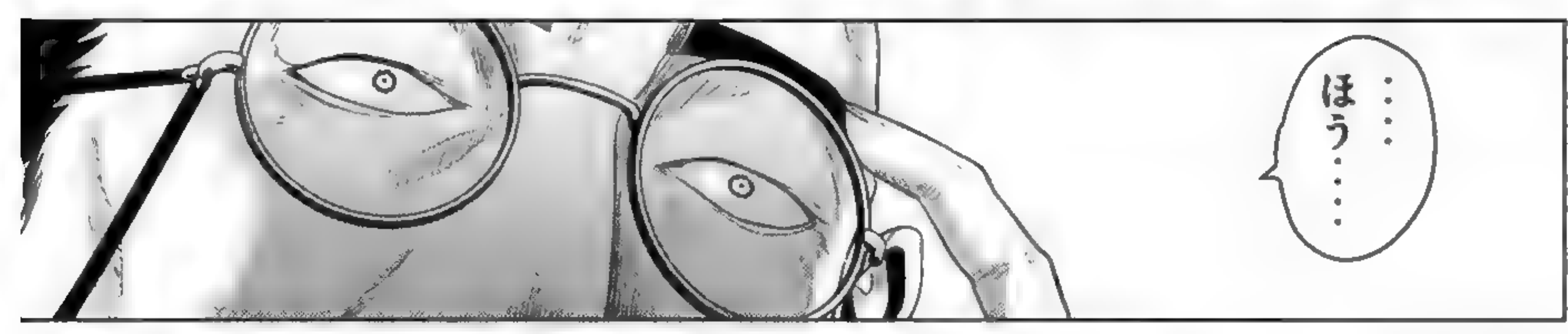
どうもこれは・・・・あの阿呆 まだ出てこれませんでな
なにとびっきりの花魁をつけましょう!!
ささ お部屋のご用意を・・・・


……結構
第四話 終

花魁は必要ない

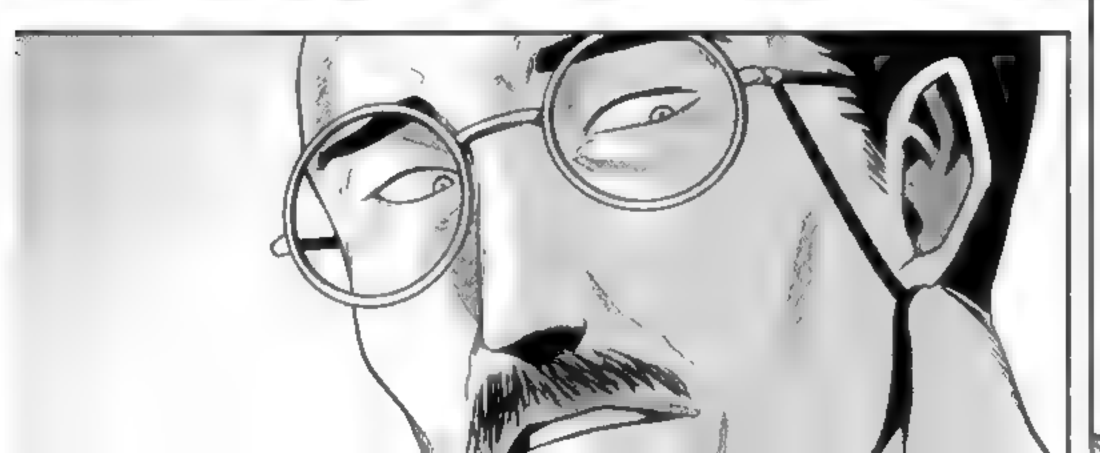
お前に話がある

第五話 この国の支配者












座れ


よしなはれ
そない
物騒なもん
もって・・・・
しがない
廓の楼主から
なんぞ
奪おうとでも
いうんか?


ミシ・・・ッ


・・・・朝霧の件だ
お前は
あの娘に
何をした


・・・・ははあ
そう
でしたな


朝霧が
あない高価な
身請け品持って
きたんは・・・・
あんた
さんのもん
でしたか

華族のご子息がだいぶ熱を上げられたご様子で











ぐだぐだぬかさんと他の女で楽しめ

死に損ないになんの操を立てる事があるんじゃ？

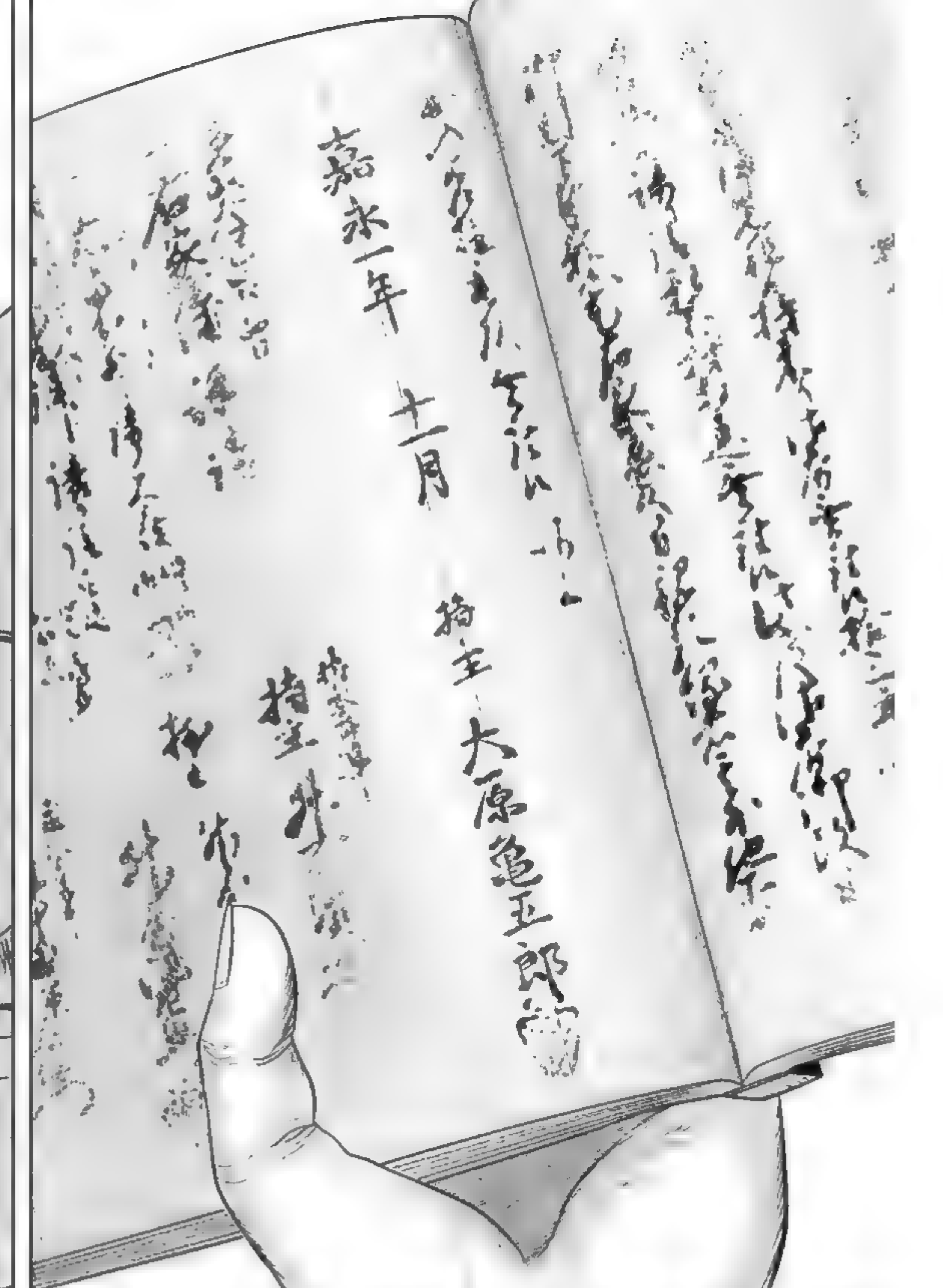

気は済んだか？幸乃助
誰を撃つ気かと思ったら‥‥
‥‥兄さん!!
これはこれは達臣さま!!
おう 弟が面倒かけたな
いえいえ よいところに
達臣さまからもご忠告申し上げてくださいな
人の店の事に口を出すなと‥‥

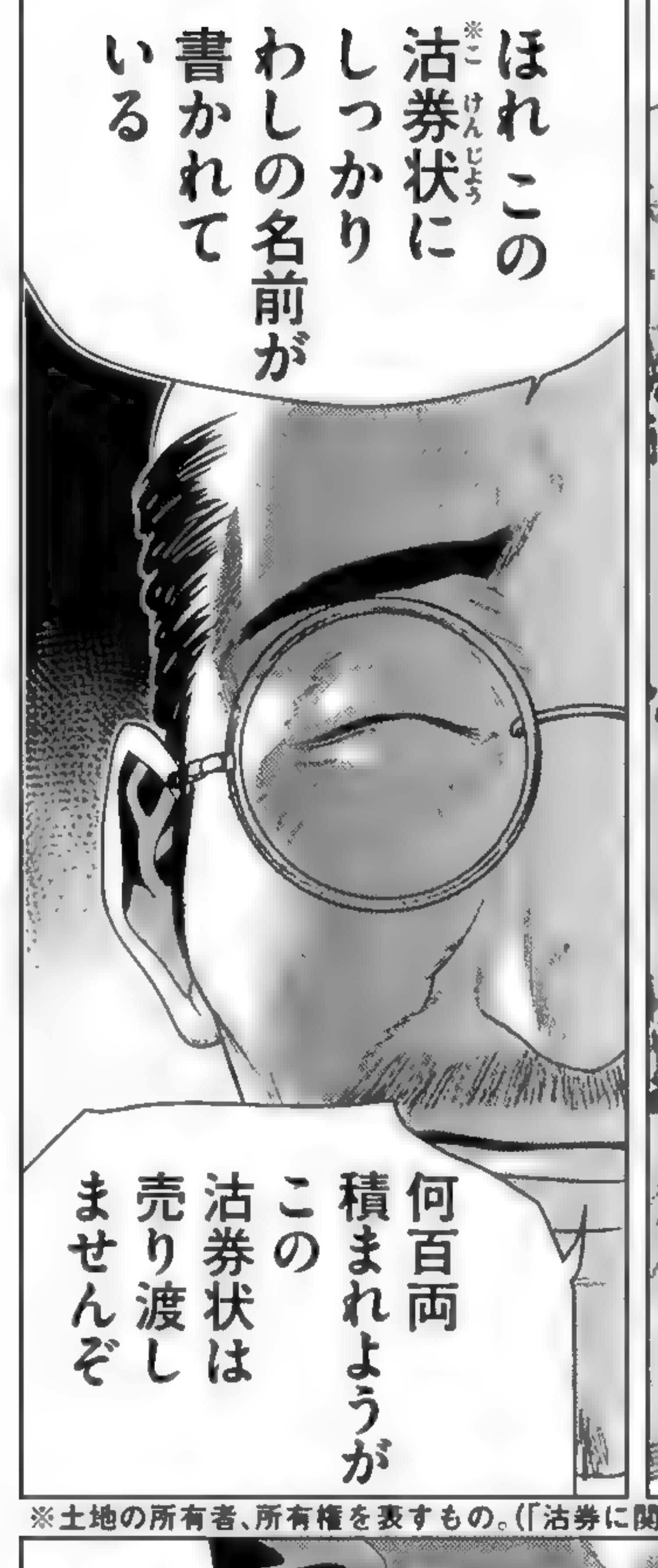

全くだ
俺の店の事に口を出すな


なにをご冗談を……
いいや 冗談じゃない
……ここは…俺の…土地…だ


へ？


……達臣さま……
カラッ





※土地の所有者、所有権を表すもの。(「沽券に関わる」の語源)







大日本帝國政府

地券

右検査之上授與之

東京府

※明治４年に東京府で発行された。地租改正で全国に地[illegible]100分の1の新税を課すのが目的であった。





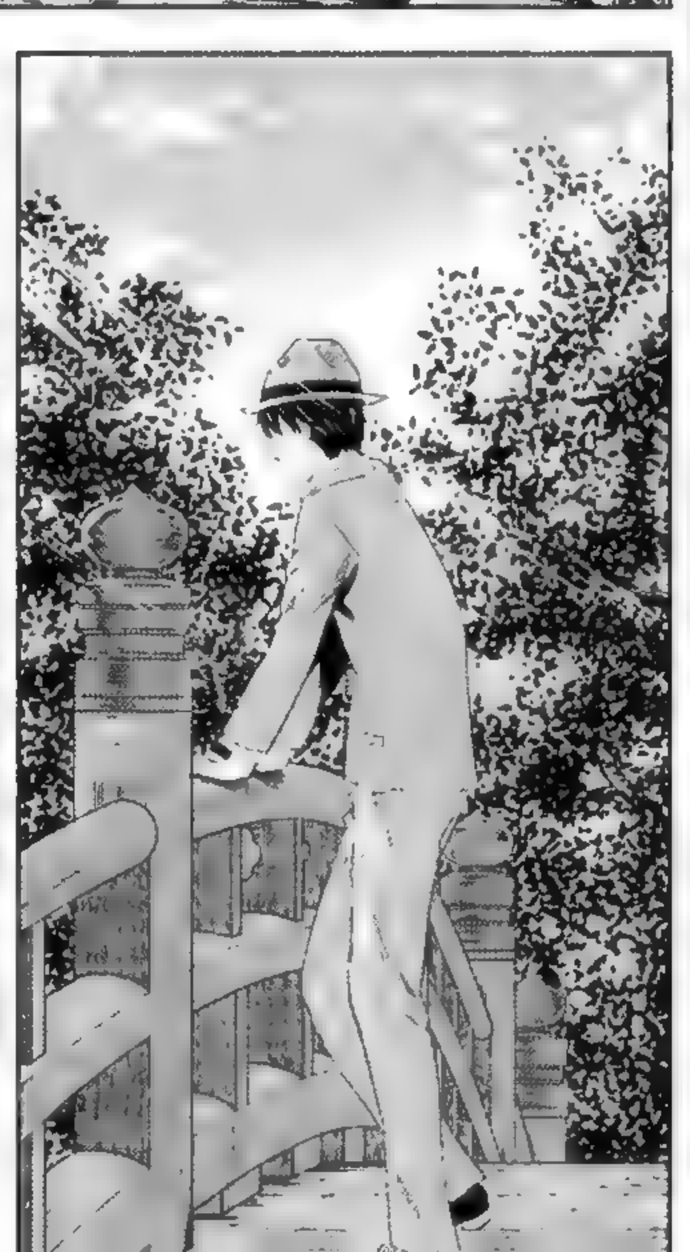

この国の支配者に
大日本
地券
右検査之上授與之
東京府


銃は必要ない
うっ……ぐぐ……
うううっ……
そんな……馬鹿なっ……

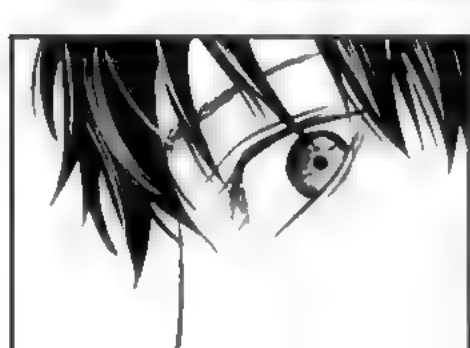

三日後


聞いたかい？葉桜の楼主が代わったって
おお なんでもどこぞの華族が土地ごと奪い取ったって話らしい
ひええ 豪気だねぇ華族サマは！



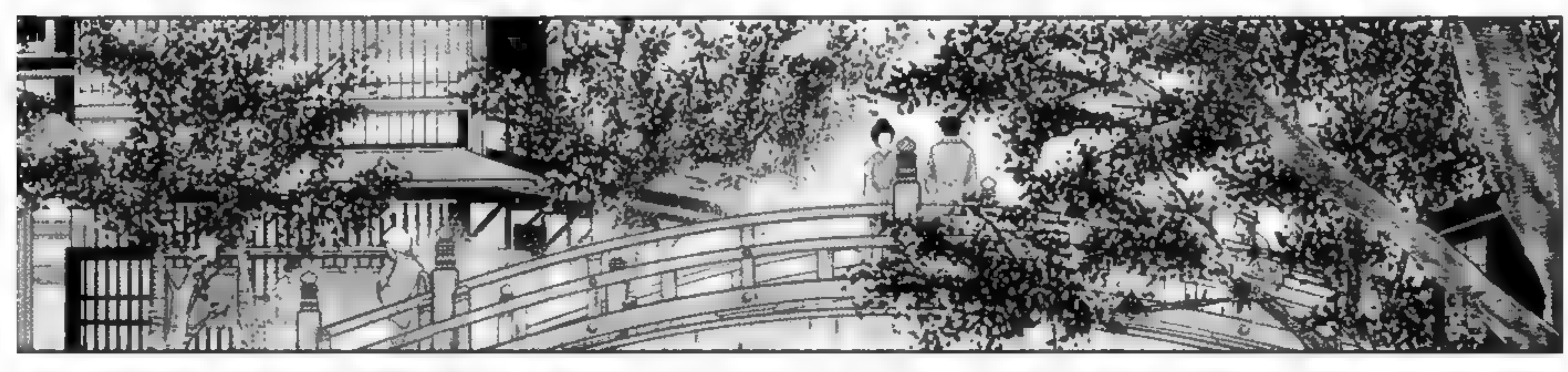



聞きましたわ兄さん
葉桜楼の遊女を解放してくれたって・・・・



朝霧・・・・!!
首はもういいのか?

ええ・・・・
その節は醜態をさらしまして







ダァッ

・・・・富い!!



すまねぇっ！すまねぇ!!

銭欲しさにあんな事しちまったんだ!!







・・・・くたばっちまえ

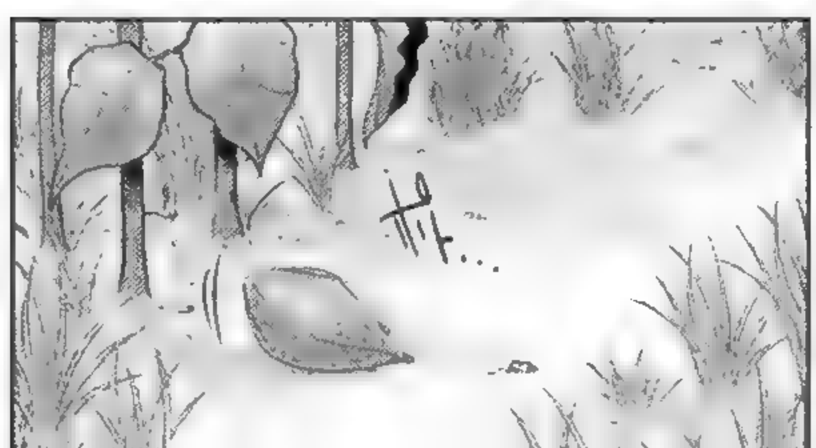







…ねえ
兄さん
ぱっ
鬼灯（ほおずき）の実を
知ってる……？


！


ポト…

真っ赤な美しい実やけど中身は空っぽ・・・・
遊女も同じや吉原にいるうち何もかも抜け落ちてく
・・・・でも
小さな小さな種はある








遊女 朝霧(本名・富)は振り返る事なく吉原を去った
貧困ゆえに娘たちが苦界(くがい)に沈む
それは昭和三十一年の「売春防止法」可決まで実に三百年以上続いたこの国の史実である
第五話 終



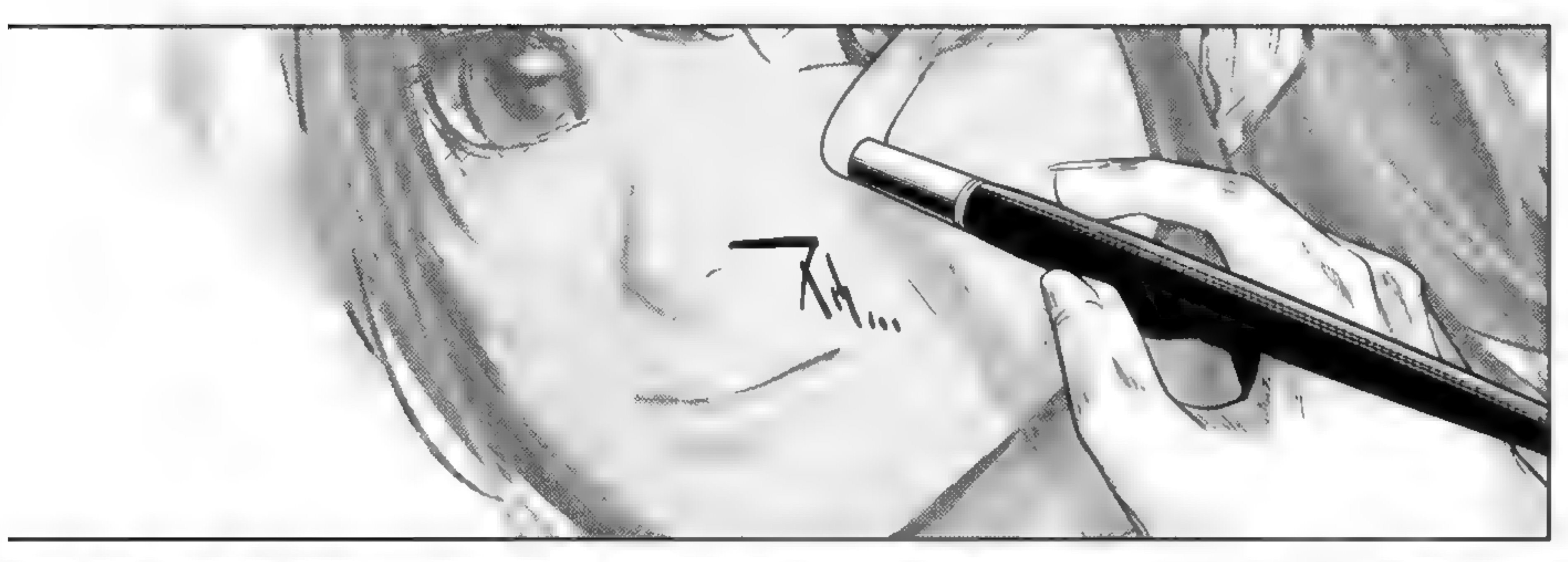
第六話 五稜家の女


様子は？
…変わらず絵をお描きになられています


まったく…あの幸乃助が連日吉原通いとはねえ
ギリ…
巷じゃ放蕩息子だの道楽放題だの噂だそうじゃない

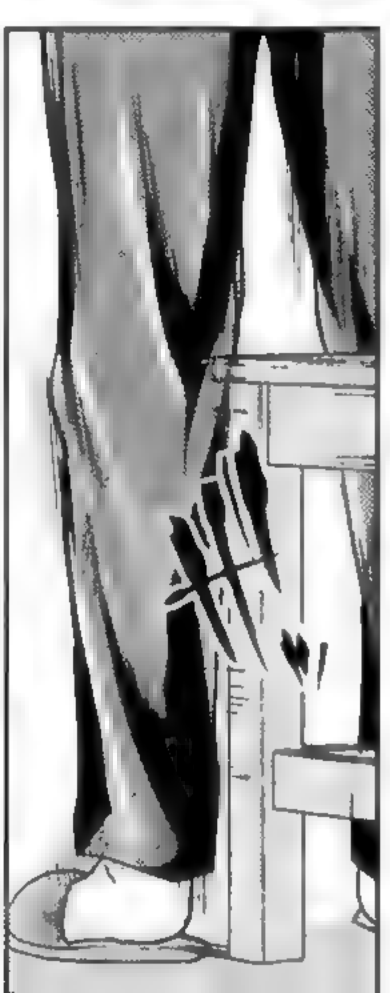

あれも男ということだ
なに 私に任せておきなさい


熱が冷めぬなら逃がせばいいのだ
しかるべき器にな


スゥ…


あれから三日
朝霧のいない吉原へ
行く気も失せた


想う事はただ
洞門沙夜の
事ばかり




幸乃助さま！どちらへ⁉
どいてくれ!!




……晴美さん!?
幸乃助さま……!


晴美さん!!
どうされたの!?
す……すみません……
私…まるで夢を見ているようですわ
また幸乃助さまにお会いできるなんて！
久しぶりだね…僕も嬉しいよ
五稜晴美

彼女と出会ったのは
僕が幼い頃
芸事を学ぶため
五稜家に
預けられた時だった

僕が十歳
晴美さんはまだ
八歳だった




だが僕は己の
不甲斐なさに
嫌気が差すあまり
向き合う事が
できなかった
のだ


さぁ
幸乃助!!


今日は皆で
出かけようじゃ
ないか
晴美さんもこうして
来てくれたんだ
嫌とは言うまい


行きましょう
幸乃助さま!!
あ……
あぁ…

東京——
南校(旧・開成学校)





※当時はそう呼ばれていた。




「野球」はほぼ同時期に日本に持ちこまれた
しかし9ボール 下手投げ ストライクゾーンは打者の好み…など 現代のものとはだいぶ異なっていた
フフ…幸乃助さまは物知りね
私本当に嬉しいですわ
ずっと…
またお会いしたかった
こうしてお話ししたかった

幸乃助さまと添い遂げたかった・・・・

それが・・・・叶うだなんて！




ワッ
ジシャッ
ガッ
あだぁ!!
DEAD BALL!!
デッドボール

え・・・・?

でもどうしてこんな急に・・・・?驚いてしまいましたわ
私の事なんて忘れていらっしゃるとばかり思っていたのに

・・・・・・いや・・・・・何を・・・・・
幸乃助!!


ご婦人に
恥をかかせる
もんじゃない
今日は
宮内卿も
いらしてるんだ

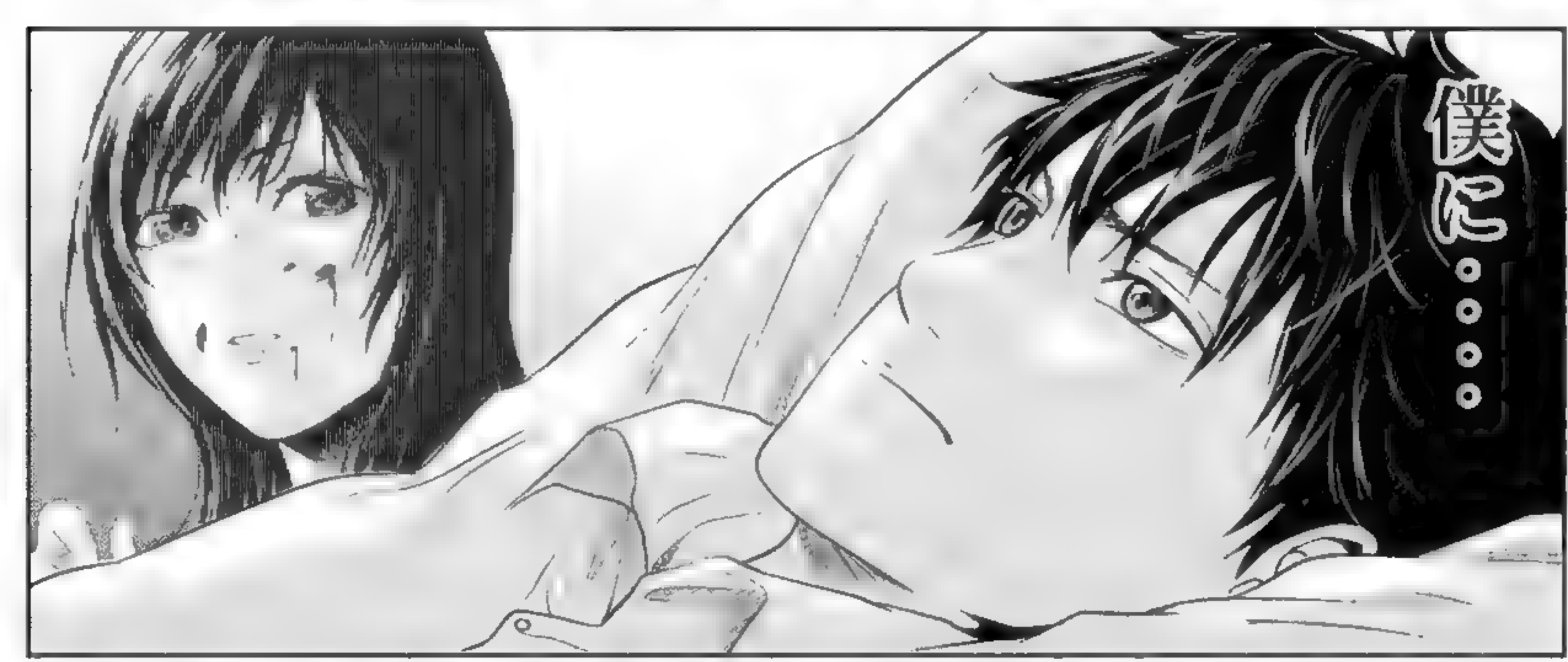
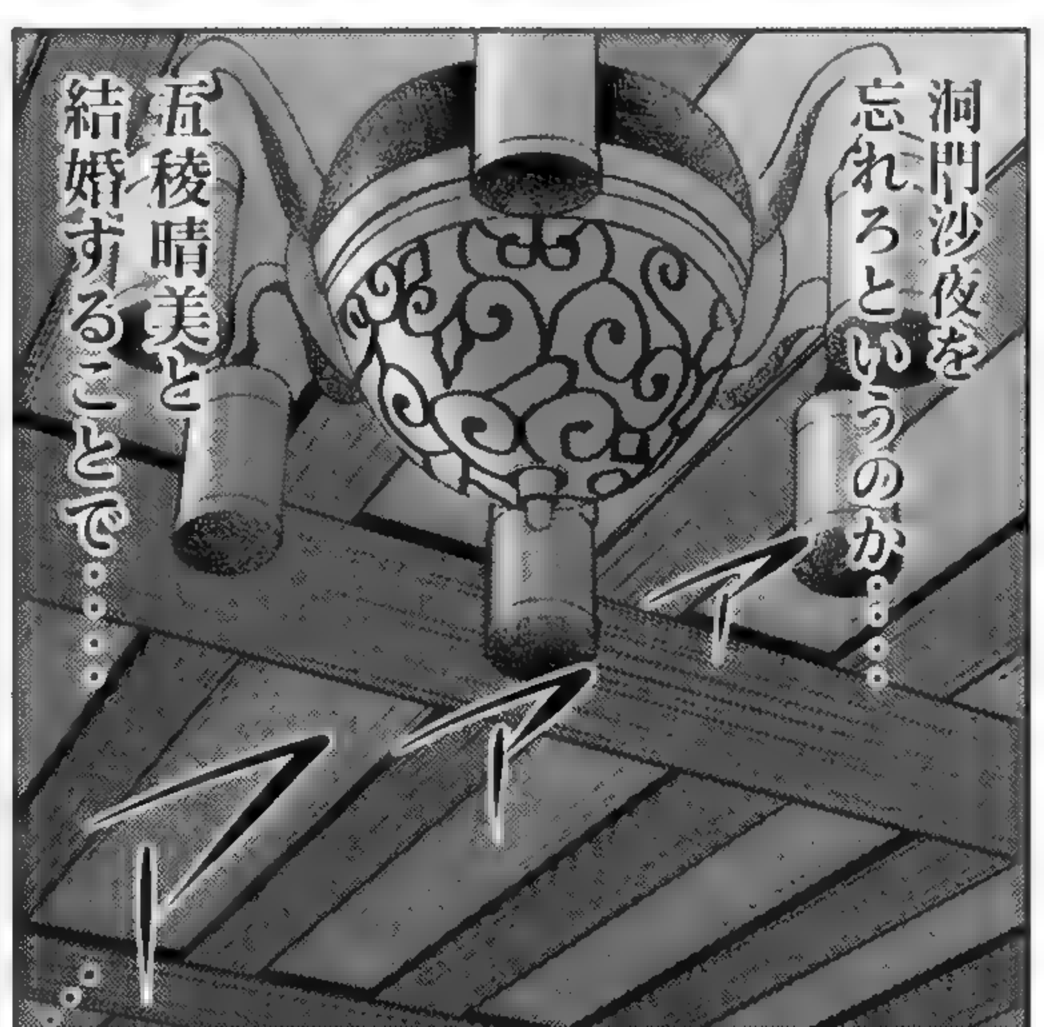
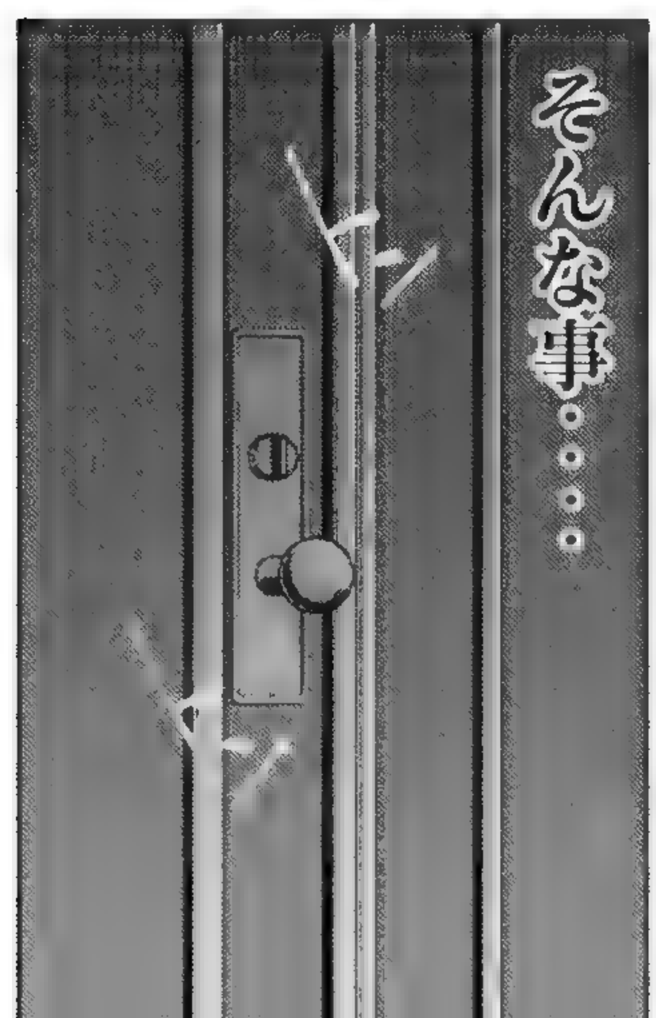

宮内卿
……??
ドクン…


華族の結婚には
宮内省の
許可が必要であった
ふうむ
……
初代宮内卿
万里小路 博房


なに……実に
お似合いの二人
じゃないか
愛州家に五稜家
双方ますますの
繁栄を祝して


縁談を認めましょう


ゴロゴロゴロ…


――なるほど・・・・
父さんの考えそうな事だ・・・

僕に・・・・・

洞門沙夜を忘れろというのか・・・・
五稜晴美と結婚することで・・・・

そんな事・・・・


失礼します


……晴美さん!?
もう寝たんじゃ……


幸乃助さま……


私雷が怖いのです今夜はここで眠っても?
夫婦となるのですよろしいでしょう?


……聞いてくれ
君と夫婦になる事はできない




僕には忘れられぬ女がいる
この縁談はそれを好まぬ両親が勝手に仕組んだものなのだ・・・・


だから・・


いいえ
そんな事どうでもいいのです


高貴な幸乃助さまの子を遺せるのはこの世にただ一人
私以外におりませんもの
第六話 終


ザァァァァァ
ギシッ…
幸乃助さまの子を遺せる女はこの世に
私以外おりませんわ
はぁ
……!?
はぁ


ギシ…
ん
ちゅぷ
ヴ…ッ
……っ
はぁー
……むぐっ……
第七話
片思いの口づけ
晴美さん
何をっ……
あむ
あっ
やめないか……!!


じゅぷ
いいえ やめませぬわ!!
ぐぽっ
私は正妻になるのです……!
ずぷぅ
あっ
くちゅ
ん…
ちゅぷ
ああん…
失礼します 幸乃助さまっ……
はぁー
ふぅー
くっ……
っあ……あ

きゃあっ!!





幸乃助さまぁっ!!

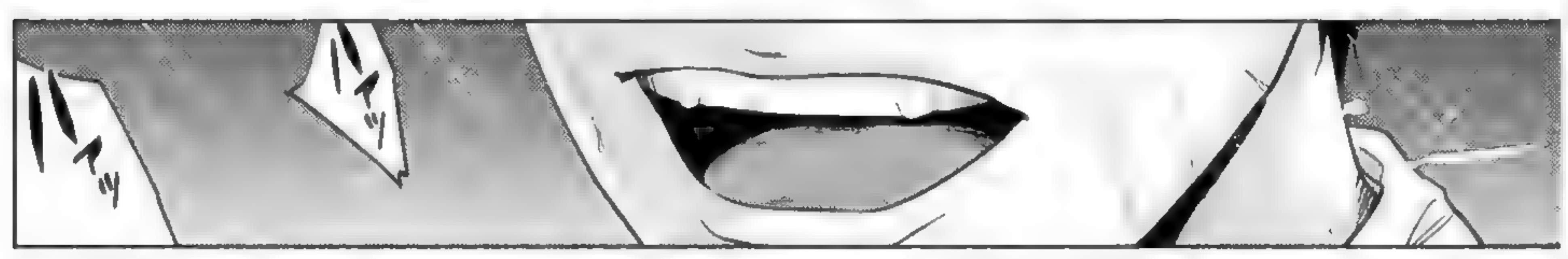







近寄るな
私は死神だぞ


お前と私で何が同じだというのだ
教えてくれ




‥‥うわっ!!
なんだっ!?

……やれやれ


どこまでも世話の焼ける弟だなまったく
一人でどこに行くつもりだ？




いい眼だ……立派な獣に育ったな
よほど気持ちよかったんだろう……

女の躰が
・・・・・・







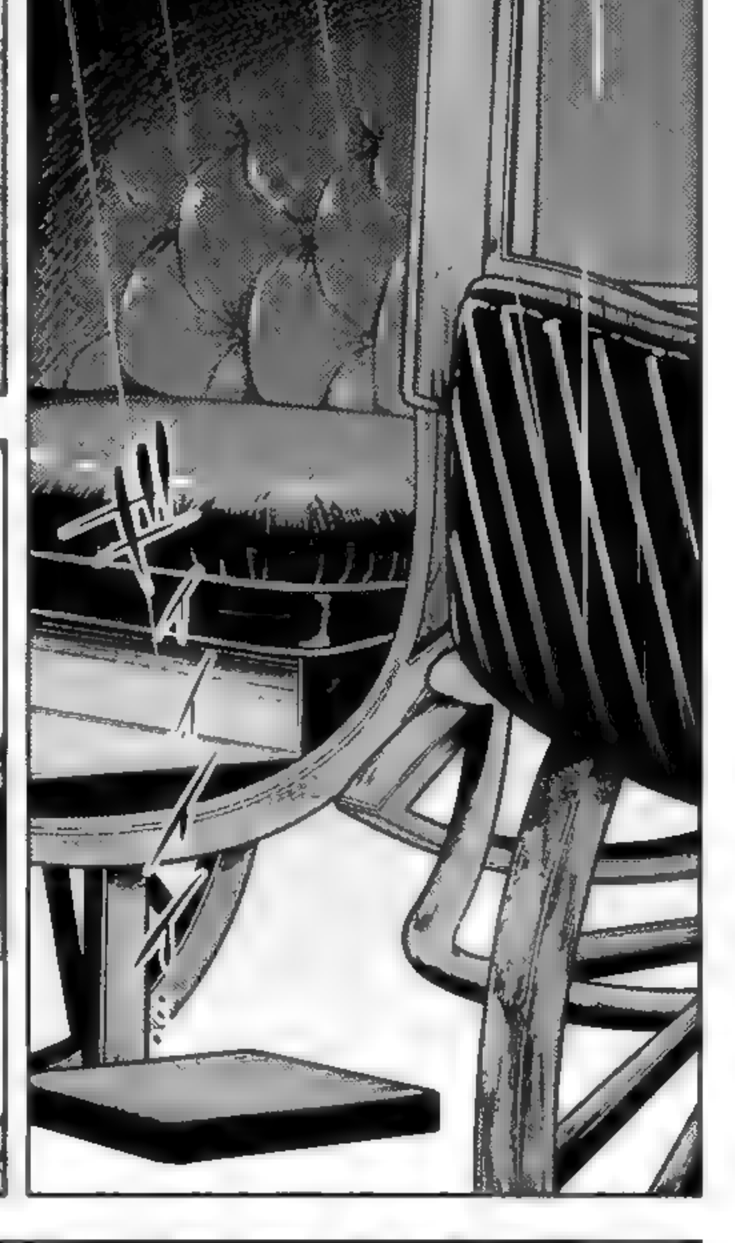
お前は捨てるのか？








……フン
聞くまでもない……か




乗れよ


連れてってくれるのか？
洞門沙夜の所に…
いいや
行き先は
……


地獄さ






……な……
……な……なぜここに……？


……人丹の件で内々に話があるのではなかったのか


……いや……
それは……
……違う




僕が……君とまた会いたかったのだ
……



……もう……忘れろ
私の事は





私は首斬り家
お前は華族

それが
全てだ

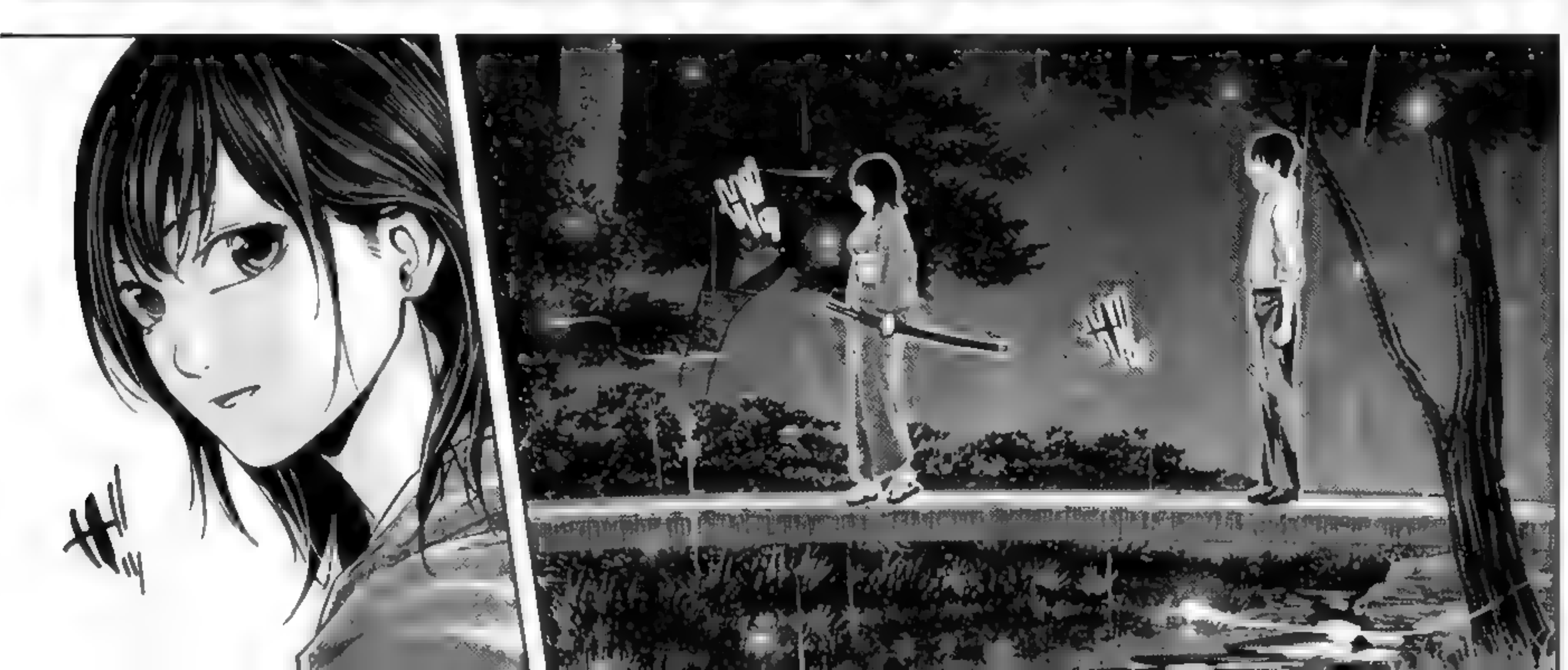








人の道は生まれた時に決まってる
お前と私の道は決して交わる事はない




第七話 終


幸乃助、岩倉使節団に入団!!?
もし刀を取り上げてしまえば
彼女の存在意義はなくなるのか……?
何ができるのか
沙夜のために、
何ができるのか——。
亜米利加へ
まだ見ぬ答えを探すため、
"維新の傑物"大久保利通と共に、
岩倉使節団に同行する幸乃助!
「チキンランチ」
そして幸乃助は、
新たな"歴史の闇"に直面する!!
アメリカの娼館だ
CHICKEN RANCH
首を斬らねば分かるまい
第2巻5月7日(木)発売!!

※この物語はフィクションです。実在の人物・団体・出来事などとは、
一切関係ありません。

※収録されている内容は、作品の執筆年代・執筆された状況を考慮し、
　コミックス発売当時のまま掲載しています。

首を斬らねば分かるまい（1）

2020年3月1日発行（01）

原作　門馬司
漫画・漫画原作　奏ヨシキ

発行者　森田浩章

発行所　株式会社　講談社
〒112-8001
東京都文京区音羽2-12-21